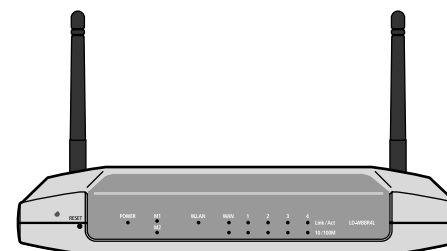
Wireless LAN Broadband Router

無線ブロードバンドルータ

LD-WBBR4L

User's Manual

エレコム株式会社

「かんたん！クイック・セットアップガイド」について

LD-WBBR4Lには、ユーザーズマニュアル以外にセットアップガイドが付属しています。セットアップガイドは、もっとも一般的な条件でご使用になるお客様が、インターネットへ接続するまでの作業手順を説明したものです。まずは、「かんたん！クイック・セットアップガイド」をお読みください。「かんたん！クイック・セットアップガイド」では設定できない場合、インターネット接続後に、オプション機能などの設定をしたい場合は、このユーザーズマニュアルをお読みください。

ご注意

- ●本製品の仕様および価格は、製品の改良等により予告なしに変更する場合があります。
- ●このマニュアルの著作権は、エレコム株式会社が所有しています。
- ●このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製/転載することを禁止させていただきます。
- ●このマニュアルの内容に関しては、製品の改良のため予告なしに変更する場合があります。
- ●このマニュアルの内容に関しましては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点がございましたら、弊社ラニード･サポートセンターまでご連絡ください。
- ●本製品のうち、戦略物資または役務に該当するものの輸出にあたっては、外国為替法に基づく輸出または役務取引許可が必要です。
- ●本製品は日本国内での使用を前提に製造されています。日本国外での使用による結果について弊社は一切の責任を負いません。また、本製品について海外での保守、サポートはおこなっておりません。
- ●エレコム、ELECOM、Laneedはエレコム株式会社の登録商標です。
- ●Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。そのほか、このマニュアルに掲載されている商品名/社名などは、一般に各社の商標ならびに登録商標です。本文中における®および™は省略させていただきました。

無線ブロードバンドルータ

LD-WBBR4L

User's Manual
ユーザーズマニュアル

■ はじめに ■

この度は、弊社ラニードの無線ブロードバンドルータ"LD-WBBR4L"をお買い上げいただき誠にありがとうございます。このマニュアルには無線ブロードバンドルータ"LD-WBBR4L"をコンピュータに導入するにあたっての手順が説明されています。また、お客様が"LD-WBBR4L"を安全に扱っていただくための注意事項が記載されています。導入作業を始める前に、必ずこのマニュアルをお読みになり、安全に導入作業をおこなって製品を使用するようにしてください。なお、このマニュアルでは、一部の表記を除いて"LD-WBBR4L"を「本製品」と表記しています。

このマニュアルは、製品の導入後も大切に保管しておいてください。

●このマニュアルで使われている記号

記　号	意　味
注意	作業上および操作上で特に注意していただきたいことを説明しています。この注意事項を守らないと、けがや故障、火災などの原因になることがあります。注意してください。
MEMO	説明の補足事項や知っておくと便利なことを説明しています。
Esc A	キーボード上のキーを表わします。

安全にお使いいただくために

Laneed

けがや故障、火災などを防ぐために、ここで説明している注意事項を必ずお読みください。

警　告	**この表示の注意事項を守らないと、火災･感電などによる死亡や大けがなど人身事故の原因になります。**
注　意	**この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり、他の機器に損害を与えたりすることがあります。**

警　告

小さな子供のいるそばで、取り付け取りはずしの作業をおこなわないでください。また、子供のそばに工具や部品を置かないようにしてください。
けがや感電をしたり、部品を飲み込んだりする危険性があります。

本製品の取り付け、取りはずしのときは、必ずコンピュータ本体および周辺機器メーカーの注意事項に従ってください。

本製品の分解、改造、修理をご自分でおこなわないでください。
火災や感電、故障の原因になります。また、故障時の保証の対象外となります。

本製品から煙やへんな臭いがしたときは、直ちにACコンセントからACアダプタを抜いてください。そのあと、ご購入店などにご連絡ください。
そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。

本製品に水などの液体や異物が入った場合は、直ちにACコンセントからACアダプタを抜いてください。そのあと、ご購入店などにご連絡ください。
そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。

水を使う場所や湿気の多いところで本製品を使用しないでください。
火災や感電、故障の原因になります。

注　意

本製品の取り付け、取りはずしのときは慎重に作業をおこなってください。
強引な着脱は、機器の故障や、けがの原因になります。

本製品を次のようなところで使用しないでください。
・高温または多湿なところ、結露を起こすようなところ
・直射日光のあたるところ
・平坦でないところ、土台が安定していないところ、振動の発生するところ
・静電気の発生するところ、火気の周辺

長期間、本製品を使用しないときは、ACコンセントからACアダプタを抜いておいてください。

導入の手順フロー

Laneed

回線事業者やプロバイダと契約し、
ADSL/CATV/FTTH回線用モデムの接続準備を完了しておきます。

▼

パッケージの内容を確認します。➡P8

▼

作業の前に注意事項をお読みください。➡P2

▼

本製品とモデム/コンピュータなどを接続します。➡別紙 セットアップガイド

▼

本製品の基本設定機能を使って、基本的な内容を設定します。➡P19

▼

インターネットに接続してみます。➡P27

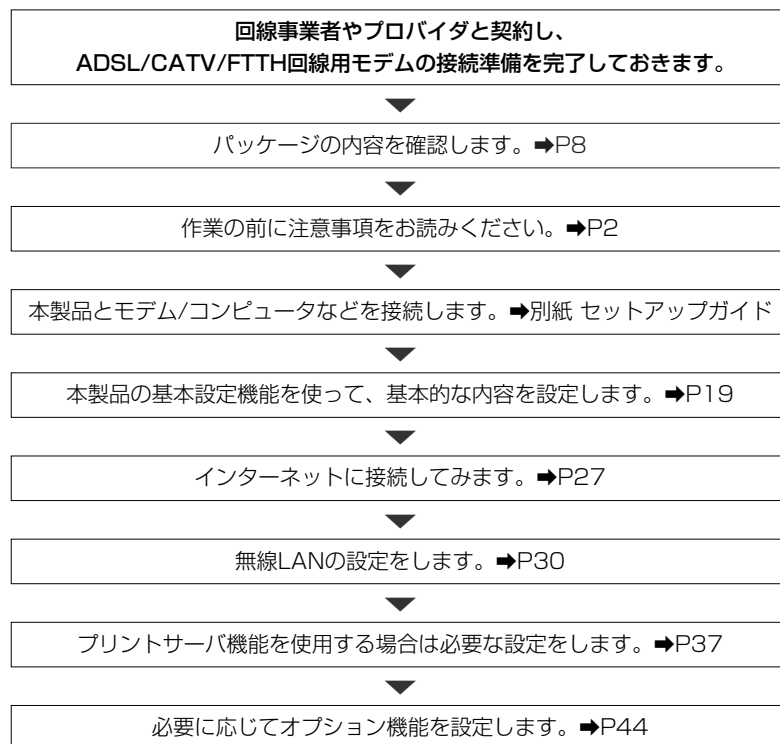
▼

無線LANの設定をします。➡P30

▼

プリントサーバ機能を使用する場合は必要な設定をします。➡P37

▼

必要に応じてオプション機能を設定します。➡P44

●導入後はユーザ登録*(➡P9参照)*をおこなってください。

もくじ

Laneed

Chapter 1

準　備　編

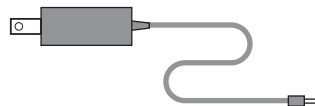
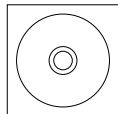
本製品の接続と設定を始める前に知っておいていただきたいことやプロバイダ情報の準備について説明しています。

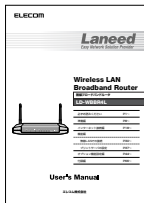
1 パッケージの内容を確認する

Laneed

本製品のパッケージには次のものが入っています。作業を始める前に、すべてが揃っているかを確かめてください。なお、梱包には万全を期しておりますが、万一不足品、破損品などがありましたら、すぐにお買い上げの販売店または弊社ラニード・サポートセンターまでご連絡ください。

●無線ブロードバンドルータ
"LD-WBBR4L" 1台

●ACアダプタ 1個
本製品専用のアダプタです。

●CD-ROMディスク

●セットアップガイド

●ユーザーズマニュアル 1冊
(このマニュアルです)

●保証書 1枚

2 製品の保証とユーザ登録

Laneed

製品の保証とサービス

本製品には、保証書が付いています。内容をお確かめの上、大切に保管してください。

●保証期間

保証期間はお買い上げの日より1年間です。保証期間を過ぎての修理は有料になります。詳細については保証書をご覧ください。保証期間中のサービスについてのご相談は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

●保証範囲

次のような場合は、弊社は保証の責任を負いかねますので、ご注意ください。

・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障
・本製品をお使いになって生じたデータの消失、または破損
・本製品をお使いになって生じたいかなる結果および、直接的、間接的なシステム、機器およびその他の異常

●修理の依頼

86ページ「修理の依頼」をお読みください。

●その他のご質問などに関して

86ページ「サポートサービスについて」をお読みください。

ユーザ登録

製品の導入が完了したらインターネットからユーザ登録をおこなってください。

●オンラインでの登録(弊社ホームページから登録が可能です)

トップページ左にある「ユーザ登録」からアクセスしてください。

ホームページアドレス:http://www.elecom.co.jp

Chapter 1

3 本製品の概要について

Laneed

本製品の特長

●無線LAN機能搭載のスタンダードモデル
10Mbpsを超えるADSLサービスをはじめ、Bフレッツ10Mbpsサービスや CATVサービスに適した無線LAN機能搭載のスタンダードモデルです。WAN ポートは10/100Mbpsに対応し、10Mbpsを超えるサービスにも安心してご利用いただけます。

●11Mbps無線LANアクセスポイント機能を搭載
11Mbps無線LANアダプタを取り付けたコンピュータをご用意いただくと、ケーブルレスでインターネットに接続したり、ネットワークを利用することができます。無線LANだけでなく、有線LAN上のコンピュータともデータのやり取りができます。

●他人にESS IDを知られない！APステルス機能を搭載
Windows XPのワイヤレスネットワーク接続や一部の無線LANアダプタの設定ユーティリティでは、電波の届く範囲にあるESS IDをすべて知ることができる機能があります。APステルス機能は、ESS IDを暗号化することで第三者にESS IDが知られることを防ぎます。

●LAN上でプリンタを共有できるプリントサーバ機能を搭載
ネットワーク上の各コンピュータから本製品に接続したプリンタへ自由に印刷することができます。Microsoftネットワーク共有サービスのプリンタ共有のように、プリンタを接続したコンピュータを起動しておく必要はありません。専用ドライバをインストールすれば、あとはプリンタポートとIPアドレスを設定するだけの簡単設定です。

●UPnP対応でテレビ電話なども簡単に
UPnP(Universal Plug and Play)に対応しています。Windows Messenger などのUPnP対応ソフトを使用する場合に、設定ユーティリティで特別な設定をしなくても、テレビ電話や音声チャットなどを楽しむことができます。
※UPnPソフトの種類、接続環境などにより、使用できる機能に制限がある場合があります。

●Unnumbered PPPoE接続に対応
固定のグローバルIPアドレス(1個)を割り当てることができるUnnumbered PPPoE接続に対応しています。

●4ポートのスイッチングHUB機能を搭載
有線LAN用に10BASE-T、100BASE-TX対応のスイッチングHUBを4ポート搭載しています。

●LANポートは、AUTO-MDIX対応でケーブル接続も安心
LANポートは接続相手がストレート接続かクロス接続かを自動的に判別するAUTO-MDIXに対応していますので、ケーブルの接続ミスから解放されます。

●各種セキュリティ機能を搭載
NAT/IPマスカレード機能により、簡易ファイヤーウォールに加え、SPIやAnti-DoSによるファイヤウォール機能を装備。WAN側からの不正アクセスや攻撃を監視し、ログに記録することができます。

●その他の機能
・Webブラウザタイプの設定ユーティリティ
・TCP/IPプロトコル対応のコンピュータならMacintosh、LinuxのOSからも接続可能
・DHCPサーバ機能を搭載
・ダイナミックDNSに対応
・IP、パケット、ポートの各フィルタリング機能を搭載
・UPnPをはじめ、特殊アプリケーション、DMZなどの機能によりネットワーク対戦ゲームも利用可能(一部、対応しないものもあります)
・バーチャルサーバにより各種サーバを公開できるポートフォワーディング機能を搭載
・ファームウェアが設定ユーティリティから簡単にアップデート可能

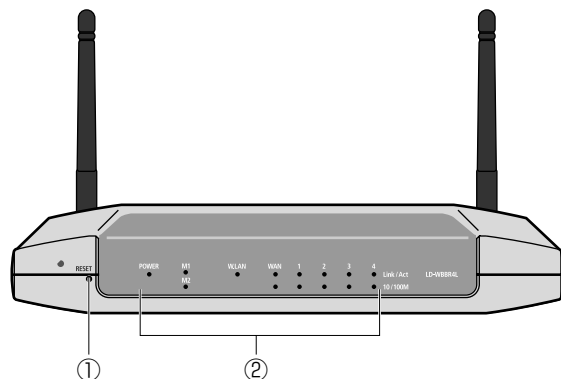
本製品の動作環境

ルータ機能については、TCP/IPプロトコルを利用できるコンピュータおよびOSであれば使用できます。ただし、弊社でサポートしている動作環境は次のとおりです。

対応機種	PC/AT互換機(DOS/V)、NEC PC98-NXシリーズ
対応OS	Windows XP, Windows Me, Windows 98, Windows 2000
プリントサーバ機能	対応機種：PC/AT互換機(DOS/V)、NEC PC98-NXシリーズ 対応OS：Windows XP/Me/98/2000 対応プリンタ：パラレルタイプのプリンタポートを持つ製品
無線LANアダプタ	弊社製 11Mbps無線LANアダプタ (PCカード、USBアダプタ、PCIボード)

プリントサーバ機能については、プリンタの種類によって、対応OSでご使用の場合でも動作しないことがあります。なお、最新の動作環境については、弊社ホームページ(http://www.elecom.co.jp)をご覧ください。

各部の名称とはたらき

■正　面

①RESET

本製品を工場出荷時の状態にリセットします。リセットの手順は次ページの「MEMO」を参照してください。

②LEDランプ

POWER		本製品の電源が入っているときに点灯します。
M1		本製品が正常に動作している場合は1秒間隔で点滅します。異常があると点滅/点灯状態が変化します。
M2		WAN側からIPアドレスを取得するときに点滅します。IPアドレスを取得した後は点灯になります。WAN側のIPアドレスが取得できないときは消灯しています。
W.LAN		無線LAN経由でデータの送受信をしているときに点滅します。
Link/Act	WAN	WAN(インターネット)側に接続されたモデムなどとリンクが確立しているときに点灯します。また、データの送受信時は点滅します。
	LAN1〜4	各LANポートのリンク状態などを表示します。コンピュータのLANポートとの間で正常にリンクが確立しているときに点灯します。また、データの送受信時は点滅します。
10/100M	WAN	モデム〜WANポートの接続タイプを表示します。点灯しているときは100Mbps環境で接続されています。消灯しているときは、10Mbps環境で接続されています。
	LAN1〜4	各LANポートに接続しているコンピュータとの接続タイプを表示します。点灯しているときは、100Mbps環境で接続されています。消灯しているときは、10Mbps環境で接続されています。

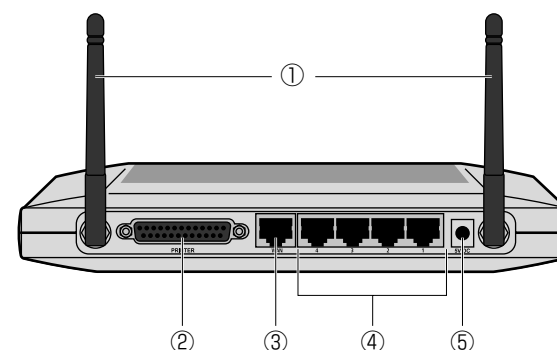
MEMO　リセットの手順

①本製品の電源を切っておきます。

②シャープペンシルの先などでRESETボタンを押しながら、本製品のDCジャックにDCプラグを差し込んで電源を入れます。

③RESETボタンからペン先などを離します。

④しばらくするとM1ランプだけが1秒間隔で点滅するようになり、リセットが完了します。

■背　面

①	外部アンテナ	無線LANで接続するために使用するアンテナです。角度を調整することができます。受信状態が悪い場合は調整してみてください。
②	プリンタポート	本製品のプリントサーバ機能を使用する場合にプリンタを接続します。対応するプリンタはパラレルポートタイプのプリンタです。本製品側のコネクタ形状はD-Sub25ピンです。
③	WANポート	CATV/ADSLなどのモデムと接続します。
④	LANポート	コンピュータなどのネットワーク機器と接続します。
⑤	DCジャック	本製品に付属のACアダプタの電源プラグを差し込みます。本製品に付属のACアダプタ以外は絶対に使用しないでください。

MEMO　MACアドレスについて

本製品にはWAN側/LAN側のそれぞれにMACアドレスが割り当てられています。

●WAN側のMACアドレスは「管理者設定(P45参照)」で確認できます。

●LAN側のMACアドレスは本製品の裏面のラベルをご覧ください。

Chapter 1

4 作業の前にお読みください

Laneed

本製品でインターネットを楽しむ場合は、以下の準備が完了していることと、プロバイダ情報の内容を確認してから接続作業を始めてください。

回線事業者/プロバイダとの契約と工事

①回線事業者/プロバイダと契約は完了していますか？

回線事業者やプロバイダとの契約を完了しておく必要があります。また、フレッツサービスの場合は、NTTとのご契約と別にプロバイダとの契約が必要です。

②モデムなどの機器は準備できていますか？

ADSL/CATV/光ファイバーなどのモデムと本製品を接続する必要があります。モデムを別途購入されるように契約している場合は、対応モデムをご用意いただく必要があります。

③回線工事は完了していますか？

回線事業者/プロバイダとの契約、モデムの設定が完了しても、屋内までの配線工事が完了している必要があります。すでに開通日を過ぎていることを確認してください。

④コンピュータ側の必要な機器は準備できていますか？

本製品と接続するネットワーク機器にはLANアダプタ(イーサネットポート)が搭載されている必要があります。コンピュータ本体などに内蔵されていない場合は、別途イーサネットアダプタを準備してください。各機器のセットアップ方法はそれぞれのマニュアルをお読みください。

設定に必要なプロバイダ情報の準備

本製品を設定する前に、プロバイダから提供されたプロバイダ情報が記載された資料を準備しておいてください。

●PPPoE接続の場合(フレッツADSL/Bフレッツなど)

フレッツADSLやBフレッツなどPPPoE接続でインターネットに接続するプロバイダの場合は、以下の情報が記載されているはずです。記入欄にメモしてください。

名　称※	記入欄(プロバイダ情報を記入してください)
ユーザID※1	
パスワード	
DNSサーバアドレス	□ 自動設定 □ 手動設定 手動設定の場合は、DNSアドレスをメモしてください。 プライマリDNS　[. . .] セカンダリDNS　[. . .]
サービス名※2	(必要な場合のみ)

※1 プロバイダによってはアカウント、ユーザ名などと表記されています。
※2 一部のプロバイダで必要な場合があります。

MEMO Unnumbered PPPoE接続の場合
本製品はUnnumbered PPPoE接続の固定グローバルIPアドレスをひとつ割り付けることができます。 [. . .]

●動的IPアドレスの場合(Yahoo!BB、CATVインターネットサービスなど)

インターネット側のIPアドレス(グローバルIPアドレス)をプロバイダ側から自動的に取得するサービスの場合は、以下の情報が記載されているはずです。記入欄にメモしてください。

名　称	記入欄(プロバイダ情報を記入してください)
DNSサーバアドレス	□ 自動設定 □ 手動設定 手動設定の場合は、DNSアドレスをメモしてください。 プライマリDNS　[. . .] セカンダリDNS　[. . .]
ホスト名※1	(必要な場合のみ)

※1 一部のプロバイダで必要な場合があります。

●静的IPアドレスの場合(固定IPアドレスが提供されるサービス)
インターネット側のIPアドレス(グローバルIPアドレス)が固定で割り当てられるサービスです。

名 称	記入欄(プロバイダ情報を記入してください)
WAN IPアドレス	グローバルIPアドレスです。 . . .
WAN サブネットマスク	. . .
WAN ゲートウェイ	. . .
DNSサーバ アドレス	プライマリDNS . . . セカンダリDNS . . .

Chapter 2

インターネット接続編

本製品を各機器と接続し、設定ユーティリティを使ってインターネットに接続できるようにします。

1 本製品を接続する

Laneed

別紙の「セットアップガイド」の「3.機器をつなぎましょう」を参考に接続してください。プリントサーバ機能をご利用になる場合は、インターネットへの接続、無線LANでの接続を確認できてから、プリンタを接続して必要な設定をしてください。プリントサーバ機能については、P37「プリントサーバ機能を利用する」をお読みください。

電源を入れる順序

電源を入れる順序を間違えると、設定ユーティリティを表示できないことがあります。

①もう一度、「セットアップガイド」をお読みになり、ケーブルが正しく接続されていることを確認します。

②モデム(終端装置)の電源を入れます。

③本製品の電源を入れます。

④コンピュータの電源を入れます。

表示ランプの確認

①モデムの説明書をお読みになり、モデムの表示ランプが正常に点灯していることを確認します。

②本製品のLink/ActのWANランプが点灯していることを確認します。
→消灯している場合、モデム～本製品間が正常に接続されていません。

③本製品のLink/ActのLANランプが点灯していることを確認します。
→消灯している場合、コンピュータの電源が入っていないか、本製品～コンピュータ間が正常に接続されていません。

●このあとは、本製品の設定ユーティリティを使って、インターネットへ接続するための設定をします。P19「設定ユーティリティを表示する」へ進みます。

2 設定ユーティリティを表示する

Laneed

プロバイダからの情報などを設定するために、本製品の設定ユーティリティを表示します。

MEMO

●すでにネットワークを使用している場合
各コンピュータのTCP/IPプロトコルが無効であったり、ローカルIPアドレスを手動設定している場合は、先に設定の変更が必要です。P72のCheck 7をお読みになり、設定を変更してください。

●無線LANから設定ユーティリティを表示したい場合
無線LANアダプタを取り付けたコンピュータから、設定ユーティリティに接続したい場合は、P30「有線LAN環境がない場合の無線LAN設定」をお読みになり、本製品に無線LANで接続できるようにしてください。

1 Internet ExplorerなどのWebブラウザを起動します。

2 ブラウザの「アドレス」に、キーボードから「http://192.168.1.254」と入力したあと、Enter キーを押します。

・2回目以降、本製品のIPアドレスを手動で変更している場合は、そのアドレスを入力します。
・設定ユーティリティ画面が表示されます。

3 左フレームにある「システムパスワード」に、キーボードから「admin」と入力し、ログイン ボタンをクリックします。

・1度アクセスしてパスワードを変更している場合は、変更後のパスワードを入力します。

不特定多数の人が利用するような環境では、第三者に設定を変更されないように、インターネットへの接続を確認した後、パスワードを変更するようにしてください(→P45参照)。

3 基本設定をする

ご契約の回線事業者/プロバイダによってWANの種類(接続タイプ)が異なります。P15「設定に必要なプロバイダ情報の準備」でメモした内容をここで使用します。

●基本設定の操作の流れ

WANの種類を指定する

PPPoE接続、動的IPアドレス、静的IPアドレスの中から接続方法を選択します。

▼

WANの種類に合わせてプロバイダ情報を設定する

プロバイダから送られてきた情報を入力します。

▼

設定を保存する

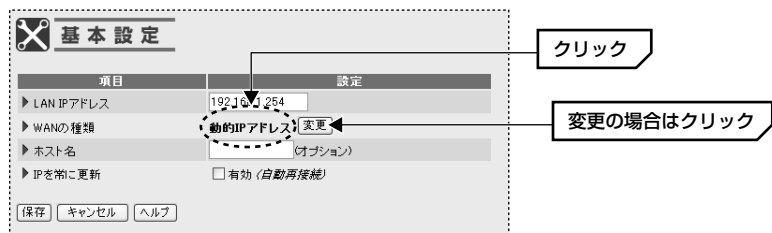
設定を保存します。これでインターネットに接続する準備は完了です。

WANの種類を指定する

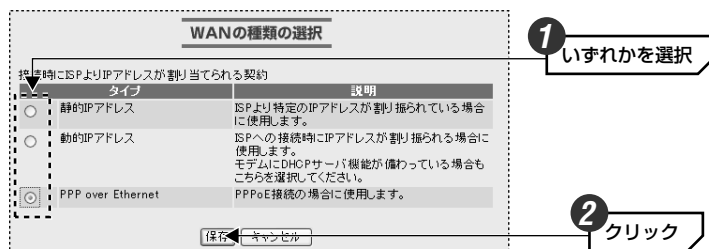
PPPoE接続、動的IPアドレス、静的IPアドレスの中から接続方法を選択します。

PPP over Ethernet	一般的にPPPoE接続と呼ばれる接続方法です。フレッツADSL、Bフレッツなどがこの接続方法です。また、Unnumbered PPPoE接続の場合も、この接続方法を選択します。
動的IPアドレス	プロバイダ側から自動的にグローバルIPアドレスを割り当てられる接続方法です。Yahoo!BBやほとんどのCATVインターネットサービスがこの接続方法です。
静的IPアドレス	プロバイダ側から固定のグローバルIPアドレスを割り当てられる接続方法です。

1 基本設定 ボタンをクリックします。

2 「WANの種類」を設定します。初期値は「動的IPアドレス」です。他の接続タイプの場合は 変更 ボタンをクリックします。

- 「動的IPアドレス」を選択した場合 ➡ P24「動的IPアドレスでの設定」へ

- 「PPP over Ethernet」または「静的IPアドレス」を選択した場合
  ➡ 手順 **3** へ

3 接続タイプを選択して 保存 ボタンをクリックします。

- 「PPP over Ethernet」を選択した場合 ➡ P25「PPPoE接続での設定」へ

- 「静的IPアドレス」を選択した場合 ➡ 次ページ「静的IPアドレスでの設定」へ

プロバイダ情報を設定する

静的IPアドレスでの設定

1 P15「設定に必要なプロバイダ情報の準備」でメモしたプロバイダの情報を入力します。

LAN IPアドレス	通常は変更する必要はありません。既存のネットワークなどに合わせる必要がある場合などに変更します。
WANの種類	「静的IPアドレス」と表示されます。
WAN IPアドレス	プロバイダより提供された固定のグローバルIPアドレスを入力します。
WANサブネットマスク	プロバイダより指示された数値を入力します。
WANゲートウェイ	
プライマリDNS	
セカンダリDNS	

2 すべての設定が終われば、P26「設定を保存する」へ進みます。

動的IPアドレスでの設定

1 P15「設定に必要なプロバイダ情報の準備」でメモしたプロバイダ情報を入力します。

LAN IPアドレス	通常は変更する必要はありません。既存のネットワークなどに合わせる必要がある場合などに変更します。
WANの種類	「動的IPアドレス」と表示されます。
ホスト名 (オプション)	CATV回線を利用するプロバイダなどで必要な場合があります。プロバイダからの指示があった場合に入力します。
IPを常に更新	通常は変更する必要はありません。有効☑にすると、システムの再起動時やリース時間切れで回線が切断された場合、自動的にプロバイダに再接続します。 ※コンピュータが起動していないときでも再接続します。

MEMO

J-COMなど@NetHome系のサービスをご利用の方

P84「補足1 J-COMなど@NetHome系の設定」をお読みください。

DNSアドレスが手動入力の場合

DNSアドレスが手動入力の場合は、基本設定を完了した後、P47「DHCPサーバ」のその他の設定で、「プライマリDNSサーバ」と「セカンダリDNSサーバ」にアドレスを設定してください。

設定を変更しなかった場合

ほかに設定する項目はありません。P27「インターネットに接続する」へ進んでください。

2 設定を変更した場合は、P26「設定を保存する」へ進みます。

PPPoE接続での設定

1 P15「設定に必要なプロバイダ情報の準備」でメモしたプロバイダ情報を入力します。

このボタンをクリックするとオプション設定が表示されます。

PPPoE サービス名	(オプション)
割当てられた IP アドレス	0.0.0.0 (オプション)

※オプションはプロバイダより指示がある場合だけ入力します。

LAN IPアドレス	本製品のIPアドレスです。本製品を接続するネットワークにすでに決まったIPアドレスがある場合にだけ変更します。
WANの種類	現在選択中のWANの種類(PPP over Ethernet)が表示されます。
PPPoEアカウント ※1	プロバイダより提供されたユーザID(アカウント)を入力します。
PPPoEパスワード	プロバイダより提供されたパスワードを入力します。
最大アイドル時間	アイドル時間(インターネットにアクセスしていない時間)が設定した時間を超えるとインターネットへの接続(PPPoEセッション)を切断します。「0」を入力するか「自動再接続」を有効にすると、アイドル時間に関係なくPPPoEセッションは接続されたままになります。「自動再接続」を有効にしている場合は、システムを再起動したり、回線が切断されたあとでも、自動的にプロバイダに再接続します。
PPPoEサービス名 ※2	プロバイダより入力するように指示があった場合に入力します。
割り当てられた IPアドレス※2	通常のPPPoE接続では入力の必要はありません。Unnumbered PPPoE接続をご契約されている場合に入力します。

※1　アカウント等の名称はプロバイダによって異なります。例えば、アカウントはユーザ名やユーザIDなどと表記されている場合があります。

※2　この項目の設定が必要な場合は、［その他の設定>>］ボタンをクリックします。

2 すべての設定が終われば、次ページ「設定を保存する」へ進みます。

設定を保存する

プロバイダからの情報の設定が終われば、設定を保存します。

1 設定が終われば、保存 ボタンをクリックします。「保存しました。変更は再起動後に有効になります。」と表示されます。

重要　必ず 保存 ボタンをクリックしてください！

「WANの種類」を変更して保存した場合、その時点で画面上に「保存されました。変更は再起動後に有効になります。」とメッセージが表示されます。しかし、この時点で保存されているのは、WANの種類の変更だけで、プロバイダ情報は保存されていません。すでに画面上に上記のメッセージが表示されていても、プロバイダ情報を入力した後に、もう一度 保存 ボタンをクリックしてください。

2 再起動 ボタンをクリックします。

3 再起動を確認するメッセージが表示されますので、OK ボタンをクリックします。

4 本製品のシステムが再起動し、しばらくすると〈システム状態〉画面が表示されます。

これでプロバイダ情報の設定は完了です。次にインターネットに接続できるかを確認します。次ページの「インターネットに接続する」へ進みます。

Chapter 2

4 インターネットに接続する

Laneed

設定が終わればインターネットに接続できるかをテストします。

1 Internet ExplorerなどのWebブラウザを起動します。

2 任意のホームページアドレスを入力し、キーボードの Enter キーを押します。ここでは、例として「http://www.elecom.co.jp」と入力します。

◆http://www.elecom.co.jpを入力した場合

※画面例の表示内容は更新により、変更されることがあります。

目的のホームページが表示されるか確認してください。正常に表示されない場合は、P66 付録編「トラブルチェック」をお読みください。

このあとは
- 無線LANで本製品に接続する➡P30「無線LANで接続する」
- プリントサーバ機能を使う➡P37「プリントサーバ機能を利用する」
- 詳細な設定をする➡Chapter 4「オプション機能設定編」

Chapter 3

機　能　編

機能編では、本製品に無線LANから接続する方法と、本製品のプリントサーバ機能を使って、ネットワーク経由でプリンタから印刷できるようにする方法を説明しています。

Chapter 3

1 無線LANで接続する

本製品の無線LAN機能を利用します。本製品は無線LANのアクセスポイントとして機能します。本製品に対応した無線LANアダプタ(PCカード･USBアダプタ･PCIボード)を別途ご用意いただくと、ケーブルレスでブロードバンドによる高速なインターネットを楽しんだり、ネットワーク上のコンピュータとデータのやり取りができます。

重 要 はじめにお読みください

本製品に有線LANで接続しているコンピュータがない場合のご注意

本製品に有線LANで接続しているコンピュータがない場合は、本製品の設定ユーティリティに無線LANを経由して接続する必要があります。このような場合で以下のような条件のときは、最初に「有線LAN環境がない場合の無線LAN設定」をお読みください。その他の場合は、P32「無線LANで接続する」へ進んでください。

- **●弊社製の無線LANアダプタをすでに使用中である場合(ESS IDなど、アダプタの無線LAN設定を変更している場合)**
- **●他社製の無線LANアダプタを使用している場合(動作保証外です)**

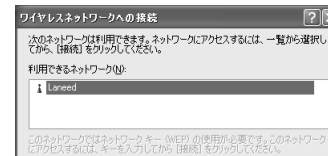
有線LAN環境がない場合の無線LAN設定

本製品の設定ユーティリティに無線LAN経由で接続する場合は、あらかじめ本製品に無線LANを経由して接続できるように設定を合わせる必要があります。

●導入時の注意

ご使用の環境に本製品に接続できる有線LAN上のコンピュータがない場合、本製品の設定ユーティリティには、無線LANアダプタを取り付けたコンピュータで接続しなければなりません。
この場合、本製品と無線LANアダプタを取り付けたコンピュータで、ESS IDなど無線LAN設定が異なると接続することができません。本製品の設定ユーティリティに接続するために、次ページのような手順で無線LANの設定をおこなってください。

Windows XPで無線LANをご使用の場合

Windows XPには、OS標準で「ワイヤレスネットワーク接続」という機能があります。ご使用の無線LANアダプタに付属していた専用ユーティリティを使用せずに、「ワイヤレスネットワーク接続」を使用している場合は、複数の接続先を選択することができます。画面右下のタスクトレイにある をクリックして接続先を「Laneed」を選択し、［接続］ボタンをクリックしてください。

●設定の流れ

ご使用になるコンピュータに無線LANアダプタのドライバをインストールし、必要なネットワーク設定が完了した状態にします。

下記の設定に無線LANアダプタの設定を合わせます。

ESS ID： **Laneed** (大文字/小文字が区別されます)
通信モード：**インフラストラクチャ・モード**
WEP設定： **無効**(WEPを使用しない)

※ESS IDは「SSID」と表記されている場合があります。

本製品を起動した状態で、無線LANアダプタを取り付けたコンピュータを起動します。

Webブラウザを起動します。
アドレスに、キーボードから「http://192.168.1.254」と入力し、［Enter］キーを押します。P20 手順 3 の〈システム状態〉画面が表示されれば正常に無線LANは動作しています。

このあと、ESS IDの変更や各種セキュリティの設定をおこないます。ESS IDが初期値のままだと、混信や不正アクセスの原因になりますので、ESS IDだけは必ず変更してください。➡P34「ESS IDを変更する」へ進みます。

無線LANで接続する

弊社製の無線LANアダプタは初期値のままであれば、すぐに本製品に接続することができます。また、Windows XP標準の「ワイヤレスネットワーク接続」を使用している場合も、設定を変更していない限り、すぐに接続することができます。

無線LANアダプタのマニュアルを読みになり、無線LANアダプタが動作するように準備しておきます。
※弊社製の無線LANアダプタの場合は、無線LANアダプタの設定ユーティリティの設定内容は変更しないでください。

1 本製品(ルータ)の電源が入っていることを確認します。

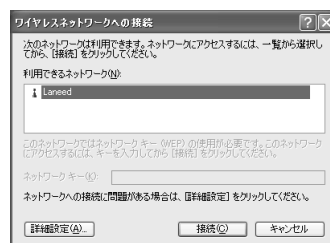
2 無線LANアダプタを取り付けたコンピュータを起動します。このあとは、無線LANアダプタの使用環境に合わせて、次の説明に進みます。

●Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続を使用してる場合
➡ 手順 **3** へ
●無線LANアダプタに付属の設定ユーティリティを使用している場合
➡ 手順 **4** へ

3 Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続を使用してる場合は、次の手順で本製品に接続します。

①タスクトレイの アイコンをクリックします。

②〈ワイヤレスネットワークへの接続〉画面が表示されますので、「Laneed」を選択し、 **接続** ボタンをクリックします。

③手順 **4** へ進みます。

4 無線LANアダプタを取り付けたコンピュータで、Internet ExplorerなどのWebブラウザを起動します。

無線LAN機能がオフになっている場合は、使用可能な状態にしてください。詳しくは無線LANアダプタの説明書をお読みください。

5 ブラウザの「アドレス」にキーボードから「http://192.168.1.254」と入力し、 Enter キーを押します。

・本製品のIPアドレスを手動で変更している場合は、そのアドレスを入力します。

6 本製品の設定ユーティリティが表示されれば、無線LANは正常に動作しています。

これで無線LANでの接続を確認できました。ESS IDが初期値のままだと、混信や不正アクセスの原因になりますので、ESS IDだけは必ず変更してください。このあと、次ページ「ESS IDを変更する」へ進みます。

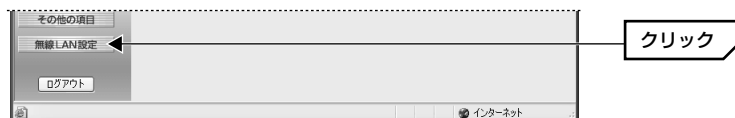
ESS IDを変更する

無線LANの混信や不正アクセスを防ぐため、ESS IDを初期値から別の名称に変更します。また、他人がESS IDを見ることができないように「APステルス機能」を設定できます。

本製品の設定ユーティリティに無線LANから接続している場合は、必ず先に本製品側(ルータ)の設定を変更し、次に無線LANアダプタ側の設定を変更してください。先に無線LANアダプタ側の設定を変更すると、本製品の設定ユーティリティに接続できなくなります。

より高度なセキュリティを確保するためにはWEP(→P62)やMACアドレスフィルタリング(→P52)、アクセス制御(→P54)などを設定すると安心です。

1 本製品の設定ユーティリティを表示します。システムパスワードを入力し、 ログイン ボタンをクリックします。

2 メインメニューにある 無線LAN設定 ボタンをクリックします。

3 「ネットワークID(ESS ID)」に新しいESS IDを入力します。

・ESS IDを半角英数字32文字以内で入力します。大文字と小文字が区別されます。

ここで設定したESS IDの名称は、無線LANアダプタを取り付けたすべてのコンピュータに同じように設定します。ESS IDの名称が異なるコンピュータは、本製品に接続することはできません。たとえば本製品のESS IDを「Tokyo」に設定した場合は、無線LANアダプタのESS IDが「Tokyo」のコンピュータは接続できますが、無線LANアダプタのESS IDが「Osaka」のコンピュータは接続できません。

4 他人にESS IDを見られないようにする場合は、「APステルス機能」を有効にします。この項目は無効のままでも無線LANの接続には関係ありません。

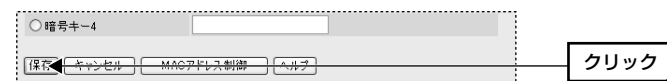
●APステルス機能について

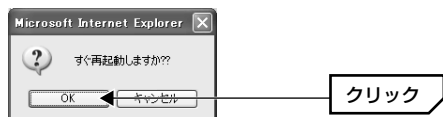
Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続、および一部の無線LANアダプタの設定ユーティリティには、電波の届く範囲にあるESS IDを表示する機能があります。この機能を利用すると第三者が不正に無線LANに侵入することができます。APステルス機能は、ESS IDを暗号化することでESS IDを他人に見られないようにします。

より詳しい説明についてはP60「無線LAN設定」をお読みください。

APステルス機能を有効にすると、ESS IDを手動で設定していない無線LANアダプタは接続できなくなります。接続できなくなった場合は、以下のように設定してください。

- ●無線LANアダプタの設定ユーティリティを使用している場合は、設定ユーティリティのESS IDを、ここで設定した名称に必ず変更してください。
- ●Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続を使用している場合は、P78「Windows XPのワイヤレスネットワーク接続を使用している場合」を必ずお読みください。

5 設定が終われば、 保存 ボタンをクリックします。「保存しました。変更は再起動後に反映されます。」と表示されます。

6 再起動 ボタンをクリックします。

7 再起動を確認するメッセージが表示されますので、OK ボタンをクリックします。

8 本製品のシステムが再起動し、〈システム状態〉画面が表示されます。

項目	WANの 状態	サイドノート
残りのリース時間	00:00:00	
IPアドレス	0.0.0.0	
サブネット マスク	0.0.0.0	
ゲートウェイ	0.0.0.0	
ドメイン ネーム サーバ	0.0.0.0	

システムを再起動した時点で、無線LANから本製品に接続することができなくなります。

9 無線LANアダプタの設定ユーティリティを起動し、アダプタ側のESS IDを本製品に設定したESS IDに変更します。

◆弊社LD-WL11/PCCSでの設定例

これで、新しいESS IDで本製品と無線LANアダプタが接続できるようになります。

より高度なセキュリティ機能として、MACアドレスフィルタリングやWEPを設定することができます。設定方法についてはChapter 4「オプション機能設定編」をお読みください。

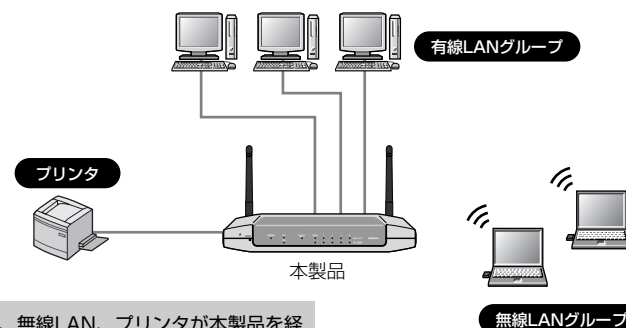
Chapter 3

2 プリントサーバ機能を利用する

Laneed

本製品のプリントサーバ機能を利用する方法について説明します。

プリントサーバ機能について

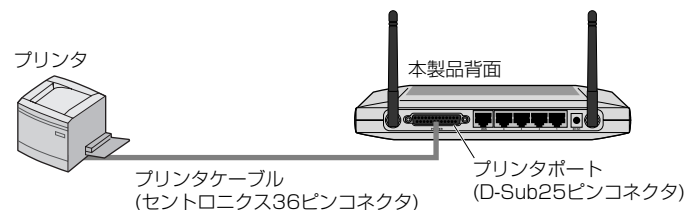
本製品のプリントサーバ機能を利用すると、LAN上のコンピュータからネットワーク経由で本製品に接続されたプリンタから印刷できるようになります。Microsoftネットワーク共有サービスによる「プリンタ共有」ではプリンタを接続したコンピュータを起動しておく必要がありますが、プリントサーバ機能ではそのようなわずらわしさはありません。

有線LAN、無線LAN、プリンタが本製品を経由してネットワークで結ばれ、自由に各コンピュータから印刷できるようになります。

●設定はこんなに簡単です！

1	本製品のプリンタポートとプリンタをケーブルで接続します。
2	ネットワーク上でプリンタを使用するすべてのコンピュータに、本製品のプリントサーバユーティリティをインストールします。
3	ネットワーク上でプリンタを使用するすべてのコンピュータに、本製品に接続したプリンタのドライバをインストールします。
4	プリンタの設定をします。これでプリンタの準備ができました。
5	アプリケーションから印刷を実行します。

※ 3と4の作業はコンピュータにプリンタを直接つないだときでも必要な作業です。

プリンタを接続する

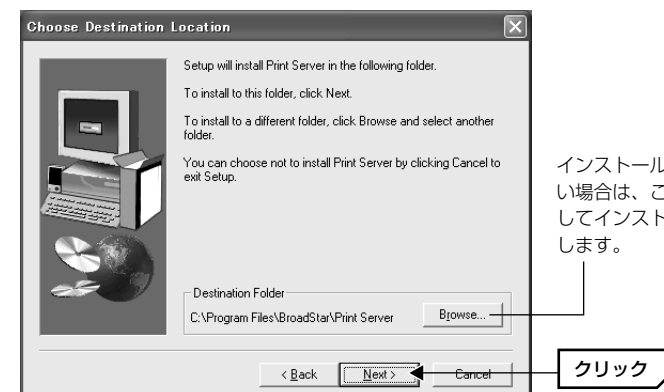
本製品のプリンタポートとプリンタをプリンタケーブル(セントロニクス36ピンコネクタ)で接続します。

ソフトウェアをインストールする

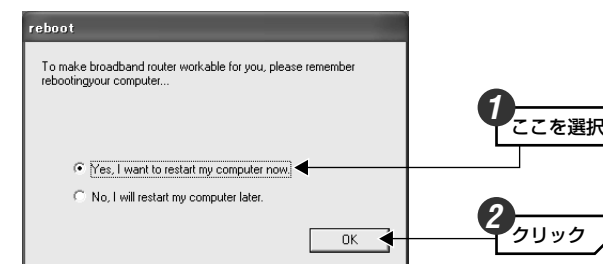
1 付録のCD-ROMをドライブに入れます。自動的にメニュー画面が表示されます。

・メニュー画面が表示されない場合は、CD-ROMの内容を開き、「Install(.exe)」をダブルクリックします。

2 プリントサーバソフトウェアのインストール ボタンをクリックします。

3 〈Welcome〉画面が表示されますので Next ボタンをクリックします。

4 インストール先を指定します。通常はそのまま変更する必要はありませんので、Next ボタンをクリックします。

5 〈Setup Complete〉画面が表示されますので Finish ボタンをクリックします。

6 〈reboot〉画面が表示されます。プリントサーバ用のソフトウェアを使用するには再起動する必要がありますので「Yes, I want to restart my computer now.」を選択し、OK ボタンをクリックします。

これでプリントサーバ用のソフトウェアがインストールされました。同じように各クライアントに、このソフトウェアをインストールし、このあとの「プリンタの設定をする」へ進みます。

プリンタの設定をする

ここでは、Windows XPの画面を使用しています。Windows Me/98では画面構成が異なる部分がありますが同じ手順で設定できます。

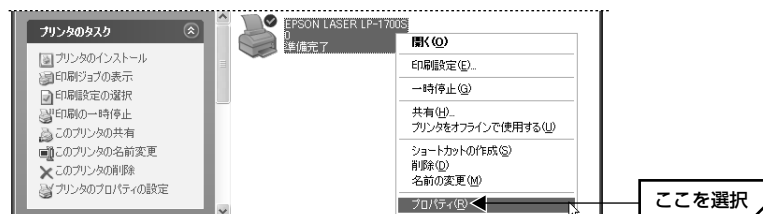
Windows 2000/NT 4.0での設定
この説明を参考に、印刷先のポートで「PRT:Print Server」を選択してください。

1 プリンタを使用するクライアント(コンピュータ)に、あらかじめプリントサーバ用ソフトウェアとプリンタのドライバをインストールしておきます。

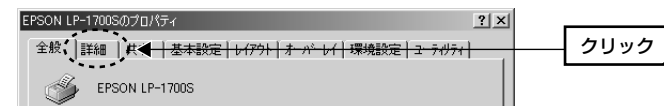
・プリントサーバ用ソフトウェアのインストール方法は、P38「ソフトウェアをインストールする」をお読みください。
・プリンタドライバのインストール方法はプリンタのマニュアルをお読みください。

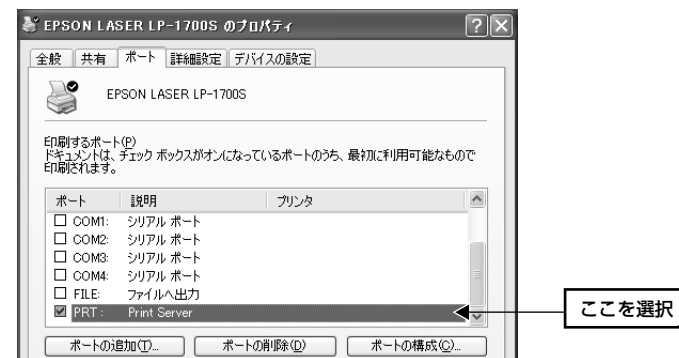
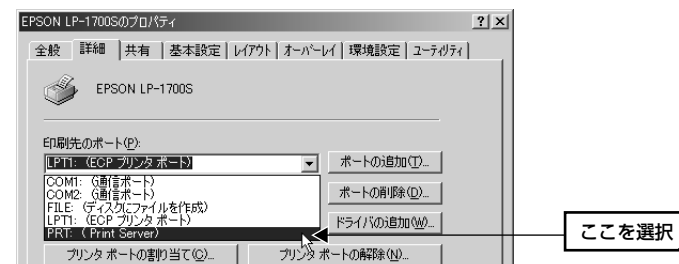
2 Windows XPでは[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[プリンタとその他のハードウェア]→[プリンタとFAX]を選択します。

・Windows Me/98では[スタート]→[設定]→[プリンタ]を選択します。

3 使用するプリンタ名にマウスのポインタを合わせて右クリックします。「プロパティ」を選択します。

・ここでは、例としてプリンタにEPSON LP-1700Sを使用しています。

4 Windows XPでは【ポート】タブを選択します。Windows Me/98では【詳細】タブを選択します。

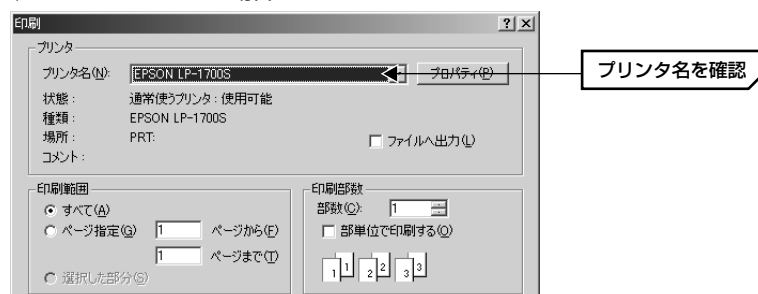
◆Windows Me/98の場合

・表示されるタブの数や種類はプリンタの機種によって変化します。

5 Windows XPでは「印刷するポート」の「PRT: PRINT Sever」を選択します。Windows Me/98では「印刷先のポート」のプルダウンメニューを開き、「PRT: (PRINT Sever)」を選択します。

◆Windows Me/98の場合

6 プリンタのプロパティの［OK］ボタンをクリックします。
・〈プリンタ〉画面が閉じます。

7 ワープロソフトやWebブラウザなどで適当な内容を表示し、印刷機能を選択します。

8 「プリンタの選択」または「プリンタ名」に、本製品に接続されたプリンタの名称が表示されていることを確認してテスト印刷を実行します。

◆Windows Me/98の場合

・用紙設定等は環境に合わせて設定してください。

9 設定が正しければ画面に表示されていたページが印刷されます。

これでプリントサーバ機能が利用できるようになりました。各クライアントで同じように設定してください。

Chapter 4

オプション機能設定編

メインメニューから選択できる各機能をボタンごとに説明しています。セキュリティ機能を向上させたり、サーバを公開するなど高度な設定が可能です。

Chapter 4

1 設定画面のリファレンス

本製品には、基本設定以外にさまざまな拡張機能があります。ここでは、拡張機能の設定画面の内容について機能ごとに説明します。

システム状態

本製品のシステム状態を表示します。[更新] ボタンをクリックすると、内容を最新の状態に更新します。

IPアドレス	WAN側の現在のIPアドレスを表示します。サイドノートには、接続タイプが表示されます。
サブネットマスク	WAN側の各アドレスを表示します。
ゲートウェイ	
ドメイン ネーム サーバ	
プリンタ	接続したプリンタの状態を表示します。準備ができているときは、「レディ」と表示されます。[削除] ボタンが表示されているときは、印刷ジョブを削除することができます。

●接続タイプによって表示される項目

接続時間 (PPPoE接続の場合)	インターネットに接続している経過時間を表示します。ボタンの内容については、画面の [ヘルプ] ボタンをクリックしてください。
残りリース時間 (動的IPアドレスの場合)	残りのリース時間を表示します。ボタンの内容については、画面の [ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

管理者設定

本製品の管理者に関する設定をします。

●管理者のパスワード変更

第三者に設定を変更されないようにパスワードを設定します。初期値は「admin」ですが、不特定多数の人がコンピュータを利用するような環境では、必ずパスワードを定期的に変更するようにしてください。

パスワードを変更するには・・・

現在のパスワードを入力し、新しいパスワードを2回入力します。入力したら [OK] ボタンをクリックします。[クリア] ボタンをクリックすると入力した内容がクリアされます。

●その他の情報とコマンド

現在のファームウェアのバージョンとWAN側ポートのMACアドレスを表示します。

●各ボタンの説明

変更※	WAN側のMACアドレスを変更したい場合に、新しいMACアドレスを入力したあとで、このボタンをクリックします。
複製する※	プロバイダによってはインターネットに接続しているコンピュータを管理するために、このクライアント(コンピュータ)のMACアドレスを知らせなければならないことがあります。そのような場合にこのボタンを押すと、このコンピュータのMACアドレスがWANポートのMACアドレスとして設定されます。
ログを見る	本製品の使用状態やアクセス状況を保存したログを見ることができます。[その他の項目]で「DoS攻撃の検出」を有効にしている場合は、外部からの攻撃を記録します。

再起動	設定を変更した場合などに、その内容を有効にするために本製品を再起動します。
バックアップ設定	現在の設定内容をファイルに保存します。詳しくは、このページの「バックアップ設定」をお読みください。
初期設定に戻す	本製品に記憶された設定内容を工場出荷時の初期値に戻します。変更した内容はすべて初期値に戻ります。
ファームウェア更新	本製品の機能向上のためにファームウェアがバージョンアップされることがあります。ファームウェアをバージョンアップすることで最新の機能を利用できたり、動作が安定したりします。更新の方法については、P58「ファームウェアを更新する」をお読みください。

※MACアドレスを変更または複製すると、 元に戻す ボタンが表示されます。変更/複製前のMACアドレスに戻すときは、このボタンをクリックします。

●バックアップ設定

現在の設定内容をファイルに保存することができます。MACアドレスフィルタリングなどの各機能を設定しているときは、設定内容を保存しておくことをお勧めします。

① バックアップ設定 ボタンを押すと〈ファイルのダウンロード〉画面が表示されます。
②「このファイルをディスクに保存する」を選択し、 OK ボタンをクリックします。
③〈名前を付けて保存〉画面が表示されますので、場所とファイル名を指定して 保存 ボタンをクリックします。拡張子は「bin」にしておきます。
➡これで保存は完了です。保存したファイルを読み込む場合は、ファームウェアの更新機能を使用します。方法についてはP58をお読みください。

基本設定

接続タイプに合わせた基本設定の内容が表示されます。内容については、それぞれのページを参照してください。

静的IPアドレス ➡ P23「静的IPアドレスでの設定」へ
動的IPアドレス ➡ P24「動的IPアドレスでの設定」へ
PPPoE接続 ➡ P25「PPPoE接続での設定」へ

DHCPサーバ

インターネットに接続するには、TCP/IPプロトコルが必要です。TCP/IPを使用するには、接続するクライアント(コンピュータ)を区別するために、ひとつひとつに異なったIPアドレスを割り当てる必要があります。クライアントの台数が多いネットワークでは、手動でIPアドレスを割り当てると手間がかかります。DHCPサーバ機能を利用すると、ネットワーク上のクライアントに対して自動的にIPアドレスを重ならないように割り当てることができます。特に無効にするように指示がない限り、有効に設定してください。

このボタンをクリックするとオプション設定が表示されます。

ゲートウェイ	0.0.0.0	(オプション)
プライマリDNSサーバ	0.0.0.0	(オプション)
セカンダリDNSサーバ	0.0.0.1	(オプション)
プライマリWINSサーバ	0.0.0.0	(オプション)
セカンダリWINSサーバ	0.0.0.0	(オプション)

MEMO
設定を変更した場合は・・・
保存 ボタンをクリックしてください。 再起動 ボタンが表示されますので、「DHCPサーバ機能」以外の項目を変更した場合は、 再起動 ボタンをクリックして再起動してください。

●DHCPサーバ機能

DHCPサーバの有効/無効を設定します。通常は「有効」にします。IPアドレスを手動で割り当てる必要がある場合やネットワーク上に別にDHCPサーバがある場合は「無効」に設定します。

●IPプール開始アドレス/IPプール終了アドレス

DHCPサーバ機能を利用する場合、DHCPサーバがクライアントに自動的に割り付けるIPアドレスの範囲を指定します。開始アドレス～終了アドレスの範囲でクライアントにIPアドレスが自動的に割り当てられます。

●ドメイン名

この項目はオプション設定です。プロバイダよりドメイン名を入力するように指示がある場合に設定します。ここに設定された内容はクライアントに転送されます。

●その他の設定

この項目はオプション設定です。プロバイダよりゲートウェイ、DNSサーバ、WINSサーバを入力するように指示がある場合に設定します。

動的IPアドレスのDNSアドレス

[基本設定]で「動的IPアドレス」を選択した場合で、プロバイダよりDNSサーバを手動で入力するように指定があるときは、その他の設定の「プライマリDNSサーバ」と「セカンダリDNSサーバ」にアドレスを入力します。

● クライアント リスト ボタン

本製品のDHCPサーバ機能が管理しているクライアントの現在のIPアドレス、ホスト名、MACアドレスを表示します。

● 固定のマッピング ボタン

クライアントのIPアドレスを固定したい場合に使用します。詳しくはP52「MACアドレスフィルタリング」をお読みください。

ダイナミックDNS

ダイナミックDNSを利用すると、固定的なグローバルIPアドレスがなくても、ホスト名を使ってサーバーを公開することができるようになります。この機能を利用するには、ダイナミックDNSに対応したプロバイダなどと契約する必要があります。ダイナミックDNSは「プロバイダ」のリストに表示されるプロバイダでご利用いただけます。

この機能はインターネット側にLAN側のコンピュータをサーバとして公開する機能です。導入にあたっては、不正アクセスなど防ぐためファイヤーウォール機能などを考慮してください。

●ダイナミックDNS

ダイナミックDNSを利用する場合は、有効を選択します。

●プロバイダ

リストの中からダイナミックDNSに対応したプロバイダを選択します。本製品で利用できるプロバイダはリストにあるプロバイダだけです。

●ホスト名

ダイナミックDNSに対応したプロバイダと契約したときに指定したホスト名を入力します。通常、ホスト名の後には、契約したプロバイダのドメイン名を付けます。

(例)　ダイナミックDNSプロバイダ名：elecom-laneed.com
　　　ホスト名：broadstar
　　　→broadstar.elecom-laneed.comになります。

●ユーザ名/E-mailアドレス

ダイナミックDNSプロバイダへの認証に使用するユーザ名を入力します。プロバイダによっては、E-mailアドレスを使用する場合もあります。

●パスワード/キー

ダイナミックDNSプロバイダへの認証に使用するパスワードを入力します。プロバイダによってキーと表記されている場合もあります。

ポートフォワーディング

ポートフォワーディング機能は、LAN上にあるクライアント(コンピュータ)をインターネットサービスに開放することができる機能です。通常NAT変換を利用するルータでは、WAN側(インターネット側)からLAN上のクライアントにアクセスすることはできませんが、バーチャルサーバ機能を利用すると本製品のWAN側に対する接続要求をLAN側の特定のクライアントに転送することができます。12個まで登録できます。
インターネットではサービスごとに接続ポートが決められているので、あらかじめ各サービス(ポート)に接続するクライアントを登録しておくことで、WAN側に接続要求があった場合に、ポートに対応したクライアントに転送することができます。

MEMO 設定を変更した場合は・・・
保存 ボタンをクリックしてください。再起動 ボタンが表示されますので、再起動 ボタンをクリックして再起動してください。

インターネットサービスのポート番号を指定します。
手動入力のほか「テンプレート機能」を利用できます(下記参照)。

クライアントとなるコンピュータのIPアドレスを指定します。

管理者用
メインメニュー
(R1.95u)
クイック設定
システム状態
管理者設定
基本設定
DHCPサーバ
ダイナミックDNS
ポートフォワーディング
特殊アプリケーション
MACアドレスフィルタリング
アクセス制御
その他の項目
無線LAN設定
ログアウト

ポートフォワーディング

ID	サービス ポート番号	サーバIPアドレス	有効
1	110	192.168.1. 201	☑
2	25	192.168.1. 201	☑
3	21	192.168.1. 202	☑
4		192.168.1.	☐
5		192.168.1.	☐
6		192.168.1.	☐
7		192.168.1.	☐
8		192.168.1.	☐
9		192.168.1.	☐
10		192.168.1.	☐
11		192.168.1.	☐
12		192.168.1.	☐

一般的なサービス -- 選択 -- IDへコピー ID --
保存 キャンセル ヘルプ

サービスの有効/無効を設定します。

テンプレート機能

●テンプレート機能の使い方(リストにないサービスには利用できません)
①リストからサービスを選択します。
②サービスを割り当てるクライアントのID番号をリストから選択します。
③ IDへコピー ボタンをクリックします。
※この方法で設定すると、そのサービスが自動的に有効になりますのでご注意ください。

特殊アプリケーション

インターネットゲーム、ビデオ会議、インターネット電話などのアプリケーションでは、特定のポートへの接続を要求することがあります。通常NAT変換を利用するルータでは、WAN側(インターネット側)からLAN上のクライアント(コンピュータ)にアクセスすることはできませんが、特殊AP機能を利用するとアクセスすることができます。DMZ機能との違いは、指定したクライアントをWAN側に全面開放するのではなく、あくまでも指定された特定のポートだけを開放するため、指定外のポートへのアクセス要求は拒否することができる点です。なお、ポートが開放されるクライアントは、対象となるアプリケーションを最初に起動したクライアントだけです。

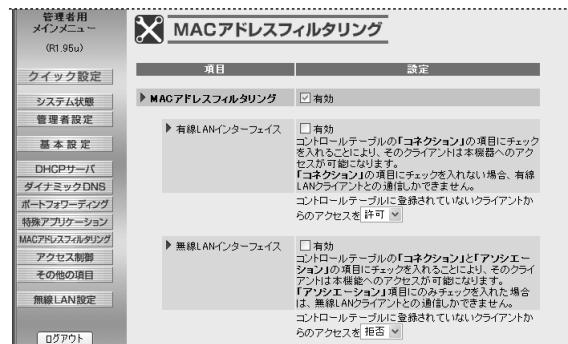
MEMO 設定を変更した場合は・・・
保存 ボタンをクリックしてください。再起動 ボタンが表示されますので、再起動 ボタンをクリックして再起動してください。

●テンプレート機能の使い方(リストにあるアプリケーションで使用可能)
①リストからアプリケーションを選択します。
②アプリケーションを登録するID番号をリストから選択します。
③ IDへコピー ボタンをクリックします。
※この方法で設定すると、設定が自動的に有効になりますのでご注意ください。

MACアドレスフィルタリング

本製品のMACアドレスフィルタリングは、有線LANのクライアント(コンピュータ)から無線LANで接続されたクライアントへの接続を許可/拒否の設定ができます。また、無線LANで接続されたクライアントから有線LANへのクライアントへの接続を許可/拒否できます。この機能ではクライアントの持つMACアドレスを登録するだけでなく、MACアドレスとIPアドレスを関連付けて、クライアントのIPアドレスを固定します。

設定を変更した場合は・・・
保存 ボタンをクリックしてください。再起動 ボタンが表示されますので、再起動 ボタンをクリックして再起動してください。

MACアドレスフィルタリングの設定

●MACアドレスフィルタリング

MACアドレスフィルタリング機能の有効/無効を指定します。チェックすると有効になります。

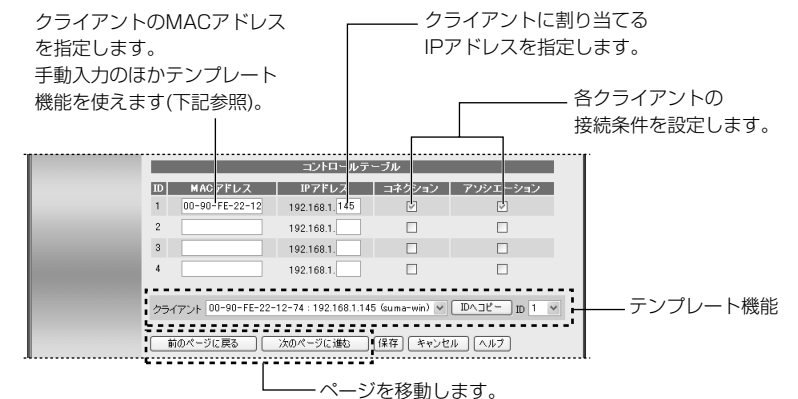
●有線LANインターフェイス

チェックすると有効になります。この設定を有効にすると、コントロールテーブルに登録されたクライアントに対して、「コネクション」の設定状態が反映されるようになります。また、コントロールテーブルに登録されていない有線LANのクライアントから本製品へのアクセスについて許可/拒否を選択できます。

●無線LANインターフェイス

チェックすると有効になります。この設定を有効にすると、コントロールテーブルに登録されたクライアントに対して、「コネクション」と「アソシエーション」の設定状態が反映されるようになります。また、コントロールテーブルに登録されていない無線LANのクライアントから本製品へのアクセスについて許可/拒否を選択できます。

コントロールテーブル

クライアントのMACアドレスとIPアドレスを関連付けます。これにより、クライアントのIPアドレスは固定されます。また、クライアントごとのアクセス権限を設定できます。アクセス権限には「コネクション」と「アソシエーション」があります。1ページに付き4つのIDがリストされます。

本製品に接続しているすべてのクライアントのMACアドレスとIPアドレスは、〈DHCPサーバ〉画面の クライアント リスト ボタンをクリックすることで一覧で見ることができます。

●テンプレート機能の使い方

①リストからクライアントを選択します。
②クライアントを登録するID番号をリストから選択します。
③ IDへコピー ボタンをクリックします。IPアドレスが自動的に登録されます。
※この方法で設定すると、そのサービスが自動的に有効になりますのでご注意ください。

●有線LANで接続されたクライアントの場合

有線LANクライアントではアソシエーションの設定は関係ありません。

コネクション→有効	すべての機能を利用できます。※
コネクション→無効	有線LANクライアントとの接続だけ許可されます。

●無線LANで接続されたクライアントの場合

無線LANクライアントではコネクションとアソシエーションの設定の組み合わせで条件が変わります。

アソシエーション→有効 コネクション→有効	すべての機能を利用できます。※
アソシエーション→有効 コネクション→無効	無線LANクライアントへの接続だけを許可します。
アソシエーション→無効 コネクション →有効または無効	アソシエーションが無効になっているクライアントは、コネクションの設定に関係なく本製品へのアクセスを拒否されます。そのため、すべての機能が利用できません。

※すべての機能とは、インターネットへのアクセス、プリントサーバの利用、有線LANおよび無線LANクライアントとの接続です。

アクセス制御

ユーザ(クライアント)をグループ分けし、グループごとにアクセスできるポートを制限することで、グループごとのアクセス権限を設定することができます。クライアントのIPアドレスを登録することでグループを設定できます。次にグループごとにポート番号を登録し、そのポートへのアクセスの許可または拒否を設定します。これにより、各グループは登録されたポートへのアクセスが許可または拒否されます。グループは3つまで設定できます。グループに含まれないクライアントはデフォルトグループとして、3つのグループとは別に登録したポートへのアクセスの許可または拒否を設定できます。

IPアドレスの固定について

アクセス制御ではクライアントをIPアドレスによって指定します。DNSサーバ機能を使っているとIPアドレスが動的に割り当てられるため、指定したIPアドレスが意図するクライアントと異なってしまう可能性があります。また、クライアントが意図的にIPアドレスを変更することも考えられます。画面下の MACレベル ボタンをクリックすると〈MACアドレスフィルタリング〉画面が表示されます。MACアドレスフィルタリングの「コントロールテーブル」を使うとクライアントのMACアドレスとIPアドレスを関連付けることで、クライアントとIPアドレスを固定することができます。

設定を変更した場合は・・・

保存 ボタンをクリックしてください。

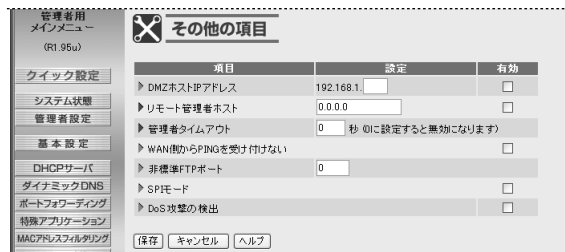
設定したポートに対するアクセスの許可/拒否を設定します。

アクセス制御の有効/無効を設定します。

〈MACアドレスフィルタリング画面〉を表示します。

アクセスを制御するポート番号を指定します。
ひとつひとつのポート番号は「, 」で区切ります。
連続したポート番号は「-」で指定することができます。

グループにするクライアントのIPアドレスを入力します。
4組で構成されるアドレスの最後のアドレスだけを入力します。
ひとつひとつのポート番号は「, 」で区切ります。
連続するIPアドレスは「-」で指定することができます。

その他の項目

設定を変更した場合は・・・
保存 ボタンをクリックしてください。再起動 ボタンが表示されますので、▶(青)マークが付いている項目を変更した場合は、再起動 ボタンをクリックして再起動してください。

●DMZホストIPアドレス

WAN側に開放したいコンピュータのIPアドレスを指定します。チェックボックスをチェックすると、指定したIPアドレスがDMZホストとしてWAN側に開放されます。

DMZ機能とは・・・
通常NAT変換を利用するルータでは、WAN側(インターネット側)からLAN上のコンピュータにアクセスすることはできないため、インターネットゲームなどを利用することができません。DMZ機能を利用すると指定したクライアント(コンピュータ)へのWAN側からのアクセスを許可するのでインターネットゲームなどを楽しむことができます。

この機能を有効にすると、指定したIPアドレスを持つクライアントは、WAN側から自由にアクセスできるようになるため、不正侵入されやすくなります。この機能を利用するときはファイヤウォールなどのセキュリティについて十分に注意してください。

●リモート管理者ホスト

インターネット側から本製品の設定ユーティリティにアクセスしたい場合にWAN側から接続するコンピュータのIPアドレスを設定します。なお、LAN上でログインしているクライアントがあると接続できません。

リモート管理者ホストを有効にすると、Webサーバポート番号は88になります。クライアントから本製品にアクセスしても設定ユーティリティが表示されない場合は、IPアドレスのあとに「:88」と入力してください。

●管理者タイムアウト

タイムアウトする時間を設定します。設定時間を過ぎると自動的にログアウトし、設定ユーティリティを使用するのに再度ログインする必要があります。「0」を入力するとタイムアウトしません。

●WAN側からPINGを受け付けない

この項目を有効にすると、WAN側からのPINGを受け付けなくなります。

●非標準FTPポート

FTPポート番号は標準では21ですが、別のポート番号を使用するときに指定します。再起動すると設定は無効(0)になります。

●SPIモード

SPI(Statefull Packet Inspection)モードを有効にすると、IPアドレス、ポートアドレス、ACK･SEQナンバーを自動的に監視します。IPパケットのヘッダ部分だけを監視する通常のフィルタリング機能よりも強固なセキュリティを実現できます。

●DoS攻撃の検出

DoS(Denial of Services)攻撃とは、インターネット側からルータやサーバなどに不正なパケットを送信し、通信を不能にしたり、サービスを停止させることです。この項目を有効にすると、「SYN Attack」「Win Nuke」「Port Scan」「Ping of Death」「Land Attack」などの攻撃を検出し、「システムログ」に記録することができます。システムログについては、P45「管理者設定」をお読みください。

ファームウェアを更新する

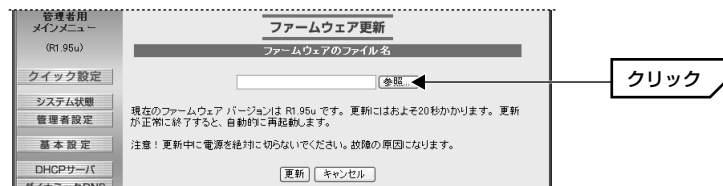
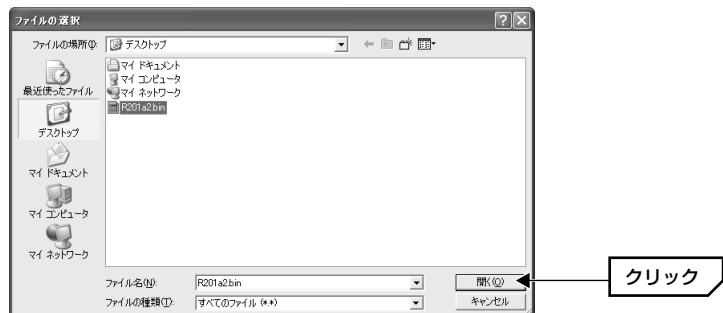
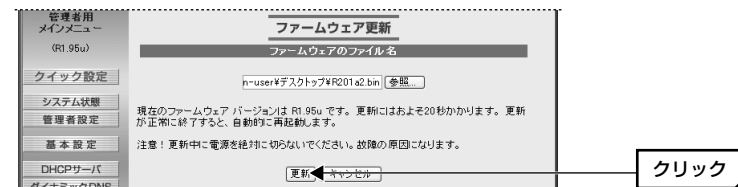
ファームウェアを更新すると本製品の機能が向上したり、動作が安定したりします。ファームウェアが更新されると弊社ホームページ(http://www.elecom.co.jp)にアップデータが掲載されますので、定期的に弊社ホームページをご覧ください。

1 弊社ホームページなどからアップデータをダウンロードしておきます。

2 本製品の設定ユーティリティを表示し、ログイン後に［管理者設定］ボタンをクリックします。

・〈管理者設定〉画面が表示されます。

3 ［ファームウェア更新］ボタンをクリックします。

4 〈ファームウェア更新〉画面で［参照］ボタンをクリックします。

5 アップデータのある場所とアップデータを選択し、［開く］ボタンをクリックします。

6 ［更新］ボタンをクリックします。

・更新作業が始まります。

更新中は安全のために、絶対に他の操作はしないでください。

7 「正常に更新されました」と表示され、そのまま〈システム状態〉画面に戻ります。

これでファームウェアの更新は完了です。

Chapter 4

2 無線LAN設定

無線LAN設定

無線LANに関する設定をするための画面です。無線LAN設定では、ESS IDを無線LANアダプタの設定ユーティリティから見えなくするための「APステルス機能」や、データを暗号化するWEPが設定します。

●ネットワークID(ESS ID)

半角英数字32文字以内で入力します。大文字と小文字が区別されます。本製品への接続を許可する無線LANアダプタのグループは、すべて同じESS IDを設定します。

●APステルス機能

APステルス機能は、ESS IDを暗号化することでESS IDを他人に見られないようにする機能です。Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続、および一部の無線LANアダプタの設定ユーティリティには、電波の届く範囲にあるESS IDをすべて表示する機能があります。APステルス機能を有効にしておくと、そのような機能を悪用して第三者が不正に無線LANに侵入することができなくなります。

APステルス機能を有効にした場合の注意点

Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続、および一部の無線LANアダプタの設定ユーティリティには、アクセスポイントのESS IDに関係なく自動的に接続できる機能があります。APステルス機能を有効にすると、そのような機能は利用できなくなります。必ず、アクセスポイントと同じESS IDを無線LANアダプタ側にも設定してください。

Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続の場合は、①P32の手順 3 の操作をします。② 詳細設定 ボタンをクリックします。③ 追加 ボタンをクリックします。④アクセスポイントと同じESS IDを入力し、 OK ボタンをクリックします。

●チャンネル

無線LANで使用する周波数帯のチャンネル番号を設定します。

●WEP(暗号化)の使用

次ページ「WEPを設定する」をお読みください。

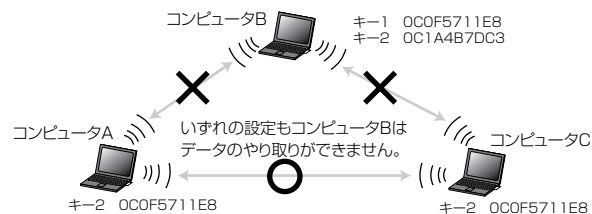
WEPを設定する

無線LAN上でやり取りされるデータを盗聴から保護するためにWEP(Wired Equivalent Privacy)に基づいてデータを暗号化します。WEPの設定をしていないクライアント(コンピュータ)は、データを読み取れなくなります。

無線LANを経由して本製品の設定ユーティリティに接続している場合

無線LANを経由して本製品の設定ユーティリティを起動している場合は、先に本製品側のWEP設定をおこない、次に無線LANアダプタ側のWEP設定をおこなってください。先に無線LANアダプタ側のWEP設定の内容を変更すると、本製品に接続できなくなります。

WEP設定のポイント

コンピュータAとコンピュータBの間で暗号化したデータをやり取りする場合は、それぞれが同じ暗号キー番号(キー1〜キー4のいずれか)を選択し、同じキーワードを入力します。これで相互に暗号化されたデータを正しく受信できます。キー番号は4つありますが、実際に使用するのはひとつだけです。使用する暗号キー番号にだけ暗号を設定してもかまいません。暗号を設定しても暗号キーの暗号が異なったり、暗号が同じでも使用する暗号キーの番号が異なったりすれば、データはやり取りできません。

WEPの設定手順

1 「WEP(暗号化)の使用」の中から使用するWEPの種類を選択します。

無効にする	WEPを使用しません。
有効にする (64bit暗号キー)	64ビットでデータを暗号化します。暗号を10桁の16進数で表します。40ビットのWEPと互換性があります。無線LANアダプタ側が40ビットしか対応していない場合はこちらを選択します。
有効にする (128bit暗号キー)	128ビットの暗号キーを使用します。64ビットよりも高度なセキュリティを確保できます。26桁の16進数で表します。

※16進数とは0〜9の数字とA〜Fのアルファベットで構成される文字列です。
(例)115EC0DB0A

2 4つの暗号キーの中から、実際に使用するキー番号を選択します。

・本製品とすべての無線LANアダプタ側のWEP設定には、同じキー番号と同じ文字列を指定する必要があります。

3 選択した暗号キーに16進数(0〜9の数字とA〜Fのアルファベットで構成される文字列)を入力します。

◆64bitを選択した場合

・64bitの場合は10桁の文字列を入力します。文字数は固定で、多くても少なくても正しく設定できません。

◆128bitを選択した場合

・128bitの場合は26桁の文字列を入力します。文字数は固定で、多くても少なくても正しく設定できません。

4 設定が終われば、［保存］ボタンをクリックします。［再起動］ボタンが表示されますので、［再起動］ボタンをクリックして再起動します。

5 保存を確認するメッセージが表示されますので、［OK］ボタンをクリックします。

これで本製品側のWEPの設定は完了です。本製品に接続するすべての無線LANアダプタに同じ設定をしてください。

Chapter 5

付　録　編

「かんたん！クイック・セットアップガイド」またはこのマニュアルの本編を読んで設定したがインターネットなどに接続できない場合は、「トラブルチェック」および「こんなときは」をお読みになり、設定をご確認ください。

Chapter 5

1 トラブルチェック

Laneed

トラブルチェックでは、セットアップガイドおよびユーザーズマニュアルの説明どおりに作業を進めたがインターネットに接続できない場合や、無線LANで接続できない場合などに、考えられる代表的なトラブルの原因をチェックする方法を説明しています。

ここでのチェック方法は、基本設定でLAN IPアドレスの設定とDHCPサーバ機能の設定を変更していないことが前提です。

接続できないときの基本チェック

ここでは、インターネットだけでなく、設定ユーティリティにも接続できないトラブルを解決するための基本的なチェック内容を説明しています。Check1から順番に確認してください。

●Check1～3を確認しても接続できない場合は、症状に合わせてP68「インターネットに接続できない」またはP69「設定ユーティリティに接続できない」をお読みください。

Check 1 回線事業者/プロバイダに関すること

回線事業者やプロバイダとの契約または工事が完了していない場合があります。

□回線事業者/プロバイダから通知されたサービス開始日を過ぎていますか。

◆ADSLサービスの場合、モデムが送付されてきても、NTT局内側の接続工事が完了し、サービス開始日を過ぎないとインターネットには接続できません。

Check 2 電源のチェック/電源を入れる順序

●電源ランプが点灯しているか確認してください。

□モデムの電源ランプが点灯していますか。

□本製品の電源ランプが点灯していますか。

□無線LANアダプタの場合、無線LANアダプタに電源が供給されていますか。

◆無線LANアダプタの場合、電源ランプの替わりにLINKランプが点灯するなど、製品によって異なります。製品のマニュアルを読んで確認してください。

□ ①モデム→②本製品→③パソコンの順序で電源を入れ直してください。

◆プリントサーバ機能を使用している場合、プリンタの電源は入っていなくてもかまいません。

Check 3 接続のチェック

ケーブルが接続されていても、接触不良を起こしていたり、間違ったケーブルを使用している場合があります。正しく接続されている場合でも、一度ケーブルを抜いて、しっかりと差し込み直してください。

注 意 **ケーブルを抜き差しする場合は、すべての機器の電源を切った状態にしてください。**

●ケーブルがそれぞれ正しく接続されているか確認してください。

□ADSLサービスでNTTとタイプ1(加入電話と共用)で接続している場合、スプリッタの各ポートに接続する相手の機器は正しく接続されていますか。

◆スプリッタには、①ADSL回線から、②電話機へ、③モデムへの3つのポートがあります。それぞれ正しく接続されているかをスプリッタの説明書を読んで確認してください。

□ADSLサービスの場合、ADSL回線～モデム間はモジュラーケーブルで接続されていますか。

□モデムからのLANケーブルが本製品のWANポートに接続されていますか。

◆間違ってLANポートに接続されていませんか。

□モデム～本製品(WANポート)に使用しているケーブルはストレートケーブルですか。

◆通常はストレートケーブルで接続してください。また、モデム側にストレートとクロス接続を切り替えるスイッチがある場合は切り替えてみてください。なお、WANポートはAUTO-MDIX対応ではありません。

□コンピュータからのLANケーブルが本製品のLANポートに接続されていますか。

◆間違ってWANポートに接続されていませんか。

●機器の電源を入れて、接続ランプが点灯しているかを確認してください。

□モデムにあるインターネット回線(ADSL/CATV/光ファイバー)との接続を示すランプは点灯していますか。

◆表示ランプについては、モデムの説明書をお読みください。点灯していない場合、インターネット回線と正常に接続できていません。ケーブルの接続などを確認してください。

□本製品のWANランプが点灯していますか。

◆点灯していない場合は、以下の原因が考えられますので確認してください。
①インターネット回線〜モデム間が正常に接続できていない。
②モデム〜本製品のWANポートが正常に接続できていない。
③機器の電源が入っていない。

□コンピュータの電源を入れた状態で、本製品のLANポートのLink/Actランプは点灯していますか。

◆点灯していない場合は、以下の原因が考えられますので確認してください。
①特定のコンピュータだけ点灯しない場合は、ケーブルの問題、LANアダプタの問題が考えられます。点灯しているコンピュータのケーブルと差し替えてみてください。
②本製品の電源が入っているのに、すべてのコンピュータが点灯していない場合は、LANアダプタの設定の問題と、本製品の故障が考えられます。

□無線LANアダプタでLINKランプがある場合は点灯していますか。

◆点灯していない場合は、無線LAN設定に問題があると考えられます。P77「無線LANがつながらない」をお読みください。

インターネットに接続できない

ここでは、設定ユーティリティには接続できるのに、インターネットに接続できない場合のトラブルを解決するためのチェック方法を説明しています。P66「接続できないときの基本チェック」を先にチェックしたうえで、こちらをお読みください。

Check 4　プロバイダ情報が保存されているかのチェック

●設定ユーティリティを表示し、メインメニューの［基本設定］ボタンをクリックします。設定内容を確認してください。

□WANの種類は、契約されたプロバイダが使用してる接続タイプですか。

(例) フレッツADSL・Bフレッツ→PPP over Ethernet
　　Yahoo!BB・おもなCATVインターネットサービス→動的IPアドレス

□表示された各項目の内容は、プロバイダから指示された内容になっていますか。

◆フレッツサービスの場合、プロバイダから指示されたアカウント(ユーザID)に@とプロバイダ識別子を入力する必要があります。詳しくはフレッツサービスの説明書をお読みください。

設定ユーティリティに接続できない

ここでは、本製品の設定ユーティリティに接続できない場合のトラブルを解決するためのチェック方法を説明しています。

Check 5　電源のチェック/電源を入れる順序

●電源ランプが点灯しているか確認してください。
□モデムの電源ランプが点灯していますか。
□本製品の電源ランプが点灯していますか。
□無線LANアダプタの場合、無線LANアダプタに電源が供給されていますか。
◆無線LANアダプタの場合、電源ランプの替わりにLINKランプが点灯するなど、製品によって異なります。製品のマニュアルを読んで確認してください。

□ ①モデム→②本製品→③パソコンの順序で電源を入れ直してください。
◆プリントサーバ機能を使用している場合のプリンタの電源は入っていなくてもかまいません。

Check 6　LANアダプタの動作チェック

LANアダプタが正常に動作しているかを確認してください。Check4・5の内容を確認してから接続テストをしてみてください。ここでは、Windows XP/Me/98の場合について説明しています。

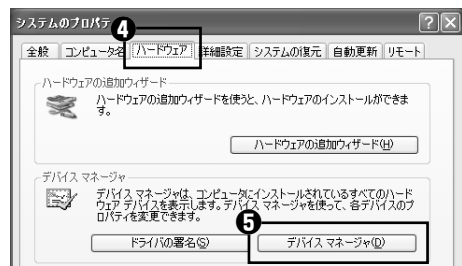
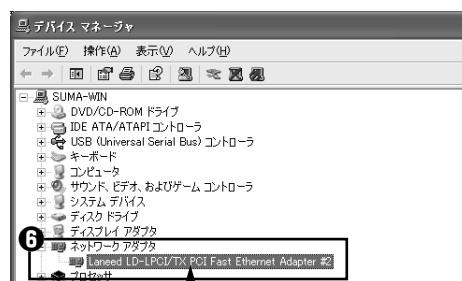
Windows XPの場合

❶[スタート]ボタンをクリックします。

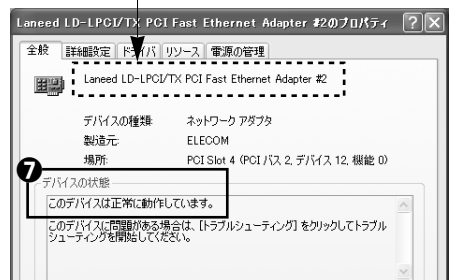
❷[マイコンピュータ]を右クリックします。

❸メニューの[プロパティ]をクリックします。

❹【ハードウェア】タブをクリックします。

❺ デバイスマネージャ ボタンをクリックします。

❻「ネットワークアダプタ」の + をクリックし、取り付けられているアダプタの名称をダブルクリックします。

この部分には実際にご使用になっているアダプタの名称が表示されます。

❼デバイスの状態に「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていることを確認します。

●異常があった場合

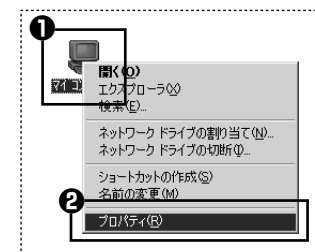
問題があるように表示されている場合は、LANアダプタのマニュアルをお読みになり、正常に動作するようにドライバを再インストールしてください。

●画面を閉じるには

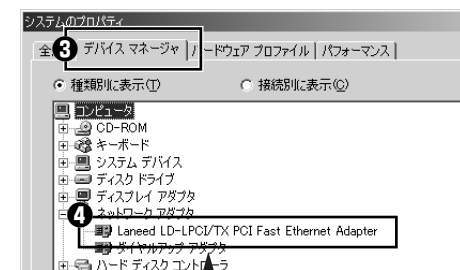
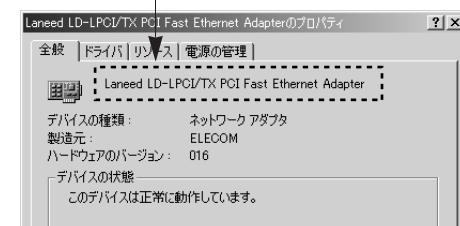
各画面の ☒ をクリックします。

Windows Me/98の場合

❶デスクトップにあるマイコンピュータのアイコンを右クリックします。

❷メニューの[プロパティ]をクリックします。

❸【デバイス マネージャ】タブをクリックします。

❹「ネットワークアダプタ」の + をクリックし、取り付けられているアダプタの名称をダブルクリックします。

※ダイヤルアップアダプタが表示されている場合がありますが、このアダプタ名は関係ありません。

この部分には実際にご使用になっているアダプタの名称が表示されます。

❺デバイスの状態に「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていることを確認します。

●異常があった場合

問題があるように表示されている場合は、LANアダプタのマニュアルをお読みになり、正常に動作するようにドライバを再インストールしてください。

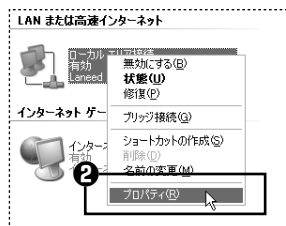
●画面を閉じるには

各画面の ☒ をクリックします。

Check 7　TCP/IPの設定チェック

インターネットを利用するには、インターネットプロトコルTCP/IPが有効になっている必要があります。また、通常はTCP/IPを自動取得するように設定されている必要があります。

Windows XPの場合

❶[スタート]→[コントロールパネル]→[ネットワークとインターネット接続]→[ネットワーク接続]の順にクリックします。

❷「ローカルエリア接続」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

この部分には実際にご使用になっているアダプタ名称が表示されます。

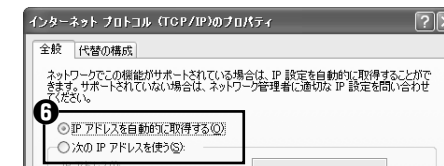
❸「この接続は次の項目を使用します」にある「インターネットプロトコル(TCP/IP)」にチェック☑が入っていることを確認します。

➡チェックが入っていない場合は、クリックしてチェックしてください。

❹「インターネット プロトコル(TCP/IP)」を選択します。

❺ プロパティ ボタンをクリックします。

❻「IPアドレスを自動的に取得する」が選択(◉)されていることを確認します。

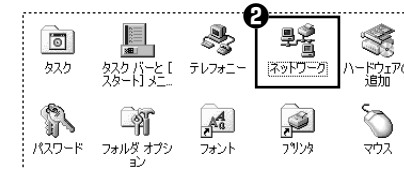
➡「次のIPアドレスを使う」が選択されている場合は、変更してください。

❼〈インターネット プロトコル(TCP/IP)のプロパティ〉画面で OK ボタンをクリックして画面を閉じます。続いて、〈ローカル エリア接続のプロパティ〉画面で OK ボタンをクリックして画面を閉じます。

❽〈ネットワーク接続〉画面の ☒ をクリックして画面を閉じます。

❾これで設定は終わりです。本製品に接続する有線LAN、無線LANすべてのLANアダプタを同じように設定してください。

●このチェック作業で設定を変更した場合は、IPアドレスを再取得するためにコンピュータを再起動してください。

Windows Me/98の場合

❶[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の順にクリックします。

❷表示された中から「ネットワーク」をダブルクリックします。

この部分には実際にご使用になっているアダプタ名称が表示されます。

❸「現在のネットワークコンポーネント」に「TCP/IP」が表示されていることを確認します。

※表示内容については、次ページを参照

●表示内容ついては、以下の点に注意してください。

・Windowsの標準状態では、「ダイヤルアップアダプタ」が表示されている場合がありますが、これはLANアダプタとは関係ありません。正常にLANアダプタが動作していれば、必ず別にLANアダプタ名が表示されています。
・複数のアダプタ名がある場合は、「TCP/IP->(ご使用のLANアダプタ名)」と表示されます。
・表示されるコンポーネントの種類は、ご使用の環境によって異なります。TCP/IPに関する設定だけを確認してください。

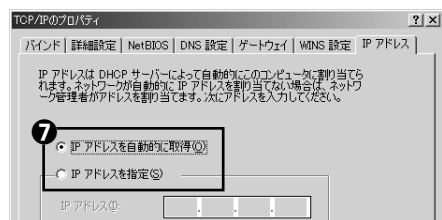
❹TCP/IPプロトコルが登録されていた場合は、操作❺へ進みます。TCP/IPプロトコルが登録されていない場合は以下の手順で追加します。

1. 〈ネットワーク〉画面で、 追加 ボタンをクリックします。
2. 〈ネットワークコンポーネントの種類と選択〉画面が表示されます。「プロトコル」を選択し、 追加 ボタンをクリックします。
3. 〈ネットワーク プロトコルの選択〉画面が表示されます。「TCP/IP」を選択し、 OK ボタンをクリックします。
4. 〈ネットワーク〉画面に戻ります。「現在のネットワークコンポーネント」にTCP/IPが追加されます。

❺TCP/IP->(ご使用のアダプタ名)」を選択します。

❻ プロパティ ボタンをクリックします。

❼「IPアドレスを自動的に取得」が選択(◉)されていることを確認します。

➡「IPアドレスを指定」が選択されている場合は、変更してください。

❽〈TCP/IPのプロパティ〉画面で OK ボタンをクリックして画面を閉じます。続いて、〈ネットワーク〉画面で OK ボタンをクリックして画面を閉じます。

❾設定を変更した場合は、再起動するようにメッセージが表示されますので、再起動してください。

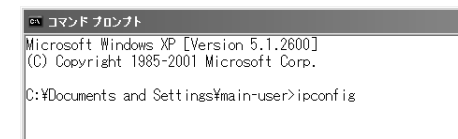
❿これで設定は終わりです。本製品に接続する有線LAN、無線LANすべてのLANアダプタを同じように設定してください。

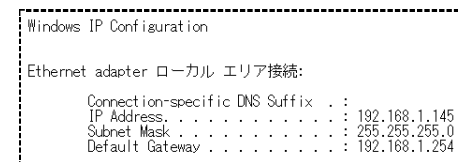
Check 8　ローカルIPアドレスの確認

Check6・7を確認してもインターネットに接続できず、設定を変更しても設定ユーティリティに接続できない場合は、IPアドレスが正常に取得できているかをチェックします。

Windows XPの場合

❶[スタート]→[(すべての)プログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]の順にクリックします。

❷〈コマンドプロンプト〉画面が開きます。「>」あとにカーソルが点滅している状態で、キーボードから「ipconfig」と入力し、 Enter キーを押します。

※入力する文字は半角英数字です。入力ミスをした場合は、 BackSpace キーを押して間違った文字のところまで削除して戻ります。このとき、途中の文字だけを削除することはできません。
「"xxx" は、内部コマンド･･･」と表示された場合は、入力ミスです。もう一度入力してください。

❸IP Addressに「192.168.1.xxx」(xxxは任意の数字が表示されます)と表示されていることを確認してください。

➡3組の数字に「192.168.1」以外の数字が表示されている場合

・Check6・7をもう一度確認してください。

❹「192.168.1.xxx」と表示された場合は、〈コマンドプロンプト〉画面で、今度は「>」あとに、キーボードから「ping 192.168.1.254」と入力し、 Enter キーを押します。

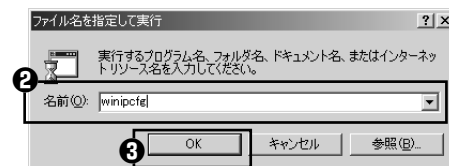
```
C:¥Documents and Settings¥main-user>ping 192.168.1.254

Pinging 192.168.1.254 with 32 bytes of data:

Replay from 192.168.1.254: bytes=32 time<1ms TTL=64
Replay from 192.168.1.254: bytes=32 time<1ms TTL=64
Replay from 192.168.1.254: bytes=32 time<1ms TTL=64
Replay from 192.168.1.254: bytes=32 time<1ms TTL=64
```

❺正常であれば、「Reply from･･･」と表示されます。

➡違うメッセージが表示される場合
- 機器の電源を切ってから、ケーブルの接続をもう一度確認してください。
- 無線LANアダプタの場合は、無線LAN設定のトラブルが考えられます。次ページ「無線LANがつながらない」をお読みください。
- Check6・7をもう一度確認してからCheck8を試してみてください。

Windows Me/98の場合

❶[スタート]→[ファイル名を指定して実行]をクリックします。

❷「名前」に「winipcfg」と入力します。

❸ OK ボタンをクリックします。

❹〈IP設定〉画面が表示されます。「IPアドレス」に「192.168.1.xxx」(xxxは任意の数字が表示されます)と表示されていることを確認してください。

➡3組の数字に「192.168.1」以外の数字が表示されている場合
- すべて書き換え ボタンをクリックします。「192.168.1.xxx」と表示されたかを確認します。
- それでも、「192.168.1」以外の数字が表示されている場合は、Check6・7をもう一度確認してください。

❺「192.168.1.xxx」と表示された場合は、[スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[MS-DOSプロンプト]をクリックします。

❻〈MD-DOSプロンプト〉画面で、「>」あとに、カーソルが点滅している状態で、キーボードから「ping 192.168.1.254」と入力し、 Enter キーを押します。

※入力する文字は半角英数字です。入力ミスをした場合は、 BackSpace キーを押して間違った文字のところまで削除して戻ります。このとき、途中の文字だけを削除することはできません。
「"xxx"は、内部コマンド･･･」と表示された場合は、入力ミスです。もう一度入力してください。

❼正常であれば、「Reply from･･･」と表示されます。

```
C:¥Windows>ping 192.168.1.254

Pinging 192.168.1.254 with 32 bytes of data:

Replay from 192.168.1.254: bytes=32 time<1ms TTL=64
Replay from 192.168.1.254: bytes=32 time<1ms TTL=64
Replay from 192.168.1.254: bytes=32 time<1ms TTL=64
Replay from 192.168.1.254: bytes=32 time<1ms TTL=64
```

➡違うメッセージが表示される場合
- 機器の電源を切ってから、ケーブルの接続をもう一度確認してください。
- 無線LANアダプタの場合は、無線LAN設定のトラブルが考えられます。このあとの「無線LANがつながらない」をお読みください。
- Check6・7をもう一度確認してからCheck8を試してみてください。

無線LANがつながらない

●無線LANアダプタ経由でしか、本製品の設定ユーティリティに接続できない環境で、設定ユーティリティに一度も接続できていない。
→とりあえず、Check8をお読みください。

●本製品の設定ユーティリティには接続できるが、インターネットに接続できない。
→P66「接続できないときの基本チェック」とP68「インターネットに接続できない」をお読みください。

Check 9　無線LANアダプタの設定の確認

無線LANアダプタの説明書をご用意ください。Windows XPでOS標準の「ワイヤレスネットワーク接続」を使用している場合は、このあとの「Windows XPのワイヤレスネットワーク接続を使用している場合」をお読みください。

❶Check6・7でアダプタが正常に動作していることを確認します。

❷無線LANアダプタの設定ユーティリティを起動します。

❸初期値に設定を戻す機能がある場合は、初期値に戻します。

❹設定を次のようにして、設定を保存します。

通信モード	インフラストラクチャ・モード(アクセスポイントを使用する)
ESS ID	Laneed(半角英字を入力、大文字と小文字を区別します)
WEP	使用しない(無効)

❺無線LANアダプタを取り付けたコンピュータを再起動します。
・このとき、無線LANアダプタのユーティリティを常駐させないと接続できない場合は、必ず常駐させてください。詳しくは無線LANアダプタの説明書をお読みください。

❻このマニュアルのP19「設定ユーティリティを表示する」をお読みになり、設定ユーティリティを表示できるか確認します。
➡表示されないときは、もう一度無線LANアダプタの設定を確認してください。

正常に動作できることを確認できたあとは、ESS IDを他の名称に変更することをお勧めします。

Windows XPのワイヤレスネットワーク接続を使用している場合

Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続を使用している場合は、以下のことを確認してください。なお、本製品の無線LAN設定にある「APステルス」機能を利用している場合は、次ページの「APステルス機能を有効にしている場合」をお読みください。

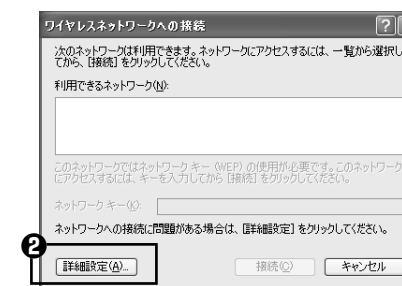
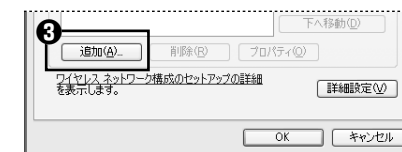
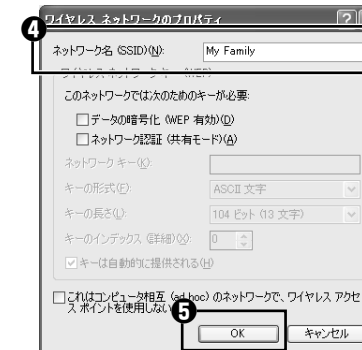
□画面右下のタスクトレイにワイヤレスネットワーク のアイコンがありますか。
◆見つからない場合は、無線LANアダプタが認識されていません。無線LANアダプタの説明書を読んで設定をやり直してください。

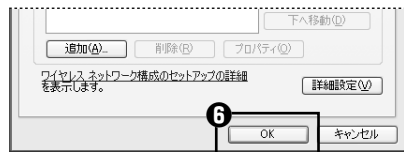
□画面右下のタスクトレイにあるワイヤレスネットワークのアイコンに×マーク が付いていませんか。
◆〈ワイヤレスネットワークへの接続〉画面に複数の「利用できるネットワーク」が表示される場合は、本製品に設定したESS IDと同じネットワークを選択し、接続 ボタンをクリックします。
◆「利用できるネットワーク」に何も表示されない場合は、無線LANアダプタの説明書を読んで設定をやり直してください。

●APステルス機能を有効にしている場合

この場合、自動的にESS IDを認識できないため、以下のようにしてESS IDを登録してください。

❶タスクトレイにある をクリックします。

❷〈ワイヤレスネットワークへの接続〉画面で 詳細設定 ボタンをクリックします。

❸〈ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ〉画面で、追加 ボタンをクリックします。

❹「ネットワーク名(SSID)」に、本製品の無線LAN設定に登録したESS IDを入力します。大文字と小文字が区別されますので注意してください。

❺ OK ボタンをクリックします。

❻〈ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ〉画面で OK をクリックします。

❼本製品の電源が入っていれば、しばらくすると自動的に本製品に接続されます。しばらくしても接続しない場合は、 アイコンをクリックし、「利用できるネットワーク」で設定したESS IDを選択し、 接続 ボタンをクリックしてください。

Check 10　本製品の無線LAN設定の確認

本製品の無線LAN設定を変更した場合は、このチェックをおこなってください。無線LAN設定の設定を一切変更していない場合は、Check11をお読みください。

□本製品のESS IDが無線LANアダプタのESS IDと同じ設定になっていますか。

◆異なっている場合は、どちらかに統一してください。大文字と小文字が区別されます。また、全角文字は使用できません。半角英数字だけをご使用ください。

□APステルス機能を有効にしてませんか。

◆有効にすると、本製品のESS IDを無線LANアダプタ側で自動認識させる機能が使えなくなります。APステルス機能を有効にした場合は、必ず無線LANアダプタのESS IDを手動で設定してください。

□本製品または無線LANアダプタのどちらかだけでWEPを有効にしていませんか。また、キー番号および暗号は同じ設定になっていますか。

◆WEPを使用する場合は、本製品とすべての無線LANアダプタのWEPを有効にする必要があります。また、WEPを有効にした場合は、同じビット数を使用し、同じキー番号に同じ暗号を設定する必要があります。確認してください。

□周囲に別のアクセスポイントや無線ルータがありませんか。

◆周囲に別のアクセスポイントや無線ルータがある場合、同じチャンネルを使用していると電波干渉が発生します。本製品のチャンネル番号を変更してみてください。無線LANアダプタ側の設定は不要です。

Check 11　その他に考えられること

□周囲に強力な電波、電磁波を発生させるものはありませんか。

◆電波干渉が起こらないようにしてください。

□周囲に別のアクセスポイントや無線ルータがありませんか。

◆周囲に別のアクセスポイントや無線ルータがある場合、同じチャンネルを使用していると電波干渉が発生します。本製品のチャンネル番号を変更してみてください。無線LANアダプタ側の設定は不要です。

□Macアドレスフィルタリング、アクセス制御の設定をしていませんか。

◆これらの機能では特定のコンピュータの接続を拒否したり、無線LANからの接続を拒否するような設定ができます。設定が正しいか確認してください。

□もう一度、無線LANの通信モード、ESS ID、WEPの設定が正しいか確認してください。

2 こんなときは

Laneed

トラブルチェックには、記載されていない事項を説明します。

●設定ユーティリティの設定を変更したら使えなくなった。

➡変更した内容を無効にできる機能では、設定を無効にして接続してみてください。

➡無線LANから設定ユーティリティに接続している場合は、RESETボタンを使って本製品の設定を初期値に戻してください。無線LANアダプタの設定は、本製品の初期値に合わせてください。
リセットの方法→P13　無線LANアダプタの設定→P77のCheck 9参照

➡有線LANから設定ユーティリティに接続している場合は、「管理者設定」にある 初期設定に戻す ボタンを使用してください。　管理者設定→P45

●LAN上のコンピュータとデータの交換ができない。

➡LAN上のコンピュータとデータを交換するには、それぞれのコンピュータに対してネットワーク設定をおこなう必要があります。ネットワーク設定の方法については、LANアダプタの説明書などをお読みください。

●プリントサーバが使えない。

➡本製品に接続したプリンタのプリンタドライバを各コンピュータにインストールする必要があります。インストールしていない場合は、プリンタの説明書をお読みになり、プリンタドライバをインストールしてください。インストールはコンピュータにプリンタを直接つなぐ場合と同じ方法でかまいません。

➡本製品に付属のCD-ROMからプリントサーバ用のソフトウェアをインストールしてください。→P38

➡プリンタ設定で使用するポートをプリントサーバ上のプリンタに設定してください。→P41

●Internet Explorerを起動すると「インターネット接続ウィザード」が表示される。

➡はじめてInternet Explorerを起動した場合に表示されることがあります。以下の手順でウィザードを実行してください。

①「インターネット接続を手動で設定するか、ローカルエリアネットワーク(LAN)を使って接続します」を選択し、次へ ボタンをクリックします。
・〈インターネット接続の設定〉画面が表示されます。

②「ローカルエリアネットワーク(LAN)を使ってインターネットに接続します」を選択し、次へ ボタンをクリックします。
・〈ローカルエリア　ネットワークのインターネット構成〉画面が表示されます。

③「プロキシサーバーの自動検出」が有効になっている場合は無効にします。すべての項目が無効になっていることを確認し、次へ ボタンをクリックします。
・〈インターネットメールアカウントの設定〉画面が表示されます。

④ここでは「いいえ」を選択し、次へ ボタンをクリックします。
※メールアカウントを設定したい場合は、メッセージに従って設定してください。

⑤〈インターネット接続ウィザードを終了します〉画面が表示されます。完了 ボタンをクリックします。

補足1　J-COMなど@NetHome系の設定

CATVインターネットサービスの@NetHome系で旧基地局を使用している場合と、インターネットにはつながるが、@NetHomeの「www/mail/news/proxy」へ接続できない場合は以下の作業が必要です。

●プロバイダより通知された「コンピュータ名」を本製品の設定ユーティリティの「動的IPアドレス」にある「ホスト名」に入力します。

●ドメイン名を調べて、入力します。以下の手順で実行してください。

①モデムとコンピュータを直結している状態のままで、DOSプロンプトから「ipconfig/all」を実行します。

②Windows XP/2000の場合は、「Connection-specific DNS Suffix」に表示されている情報をメモします。
Windows Me/98の場合は、ホスト名をメモします。

(例)コンピュータ名.xyz0.aa.home.ne.jp
この情報のxyz0.aa.home.ne.jpの部分をメモします(この内容は基地局によって異なります)。

③本製品の「DHCPサーバ設定」にある「ドメイン名」に、この情報を入力します。

MEMO **新基地局の場合についての補足**
新基地局では、MACアドレスを2つまで記憶/管理できます。この場合は、以下の2つの方法のうち、いずれかの作業が必要です。

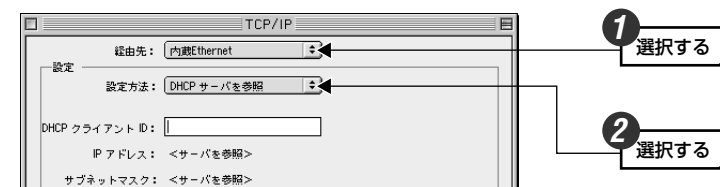
●ケーブルモデムの電源を数分間切ってメモリを初期化する。

●管理者設定の「WAN Macアドレス」に今まで使用していたLANアダプタのMACアドレスをコピーする。

補足2　Mac OSでのTCP/IP設定

Mac OSではMac OS Xとそれ以前のOSで設定画面の表示方法が異なります。ご使用になるOSに合わせてお読みください。

■Mac OS 8.xおよび9.xの場合

コントロールパネルにある「TCP/IP」を開き、[経由先]を「Ethernet」または「内蔵Ethernet」に設定し、[設定方法]を「DHCPサーバを参照」に設定してください。

■Mac OS Xの場合

次の手順で設定してください。

①[アップルメニュー]→[システム環境設定]を選択します。
②〈システム環境設定〉画面で[ネットワーク]をクリックします。
※ツールバーに[ネットワーク]が表示されていない場合は、[すべてを表示]をクリックします。
③[ネットワーク]の「表示」で「(内蔵)Ethernet」を選択します。
④【TCP/IP】タブの「設定」で「DHCPサーバを参照」を選択します。
⑤ 保存 ボタンをクリックします。

Chapter 5

3 サポートサービスについて

Laneed

ラニード製品のサポートサービスについては、下記のラニード・サポートセンターへお電話またはFAXでご連絡ください。サポート情報、製品情報に関しては、FAX情報、インターネットでも提供しております。なお、サポートサービスを受けるためには、必ずユーザ登録をおこなってください。

●ラニード・ブロードバンドルータ専用サポート

TEL：03-5798-7900　　FAX：03-3444-8205

受付時間：9:00～12:00　13:00～19:00(年中無休)
※上記の電話番号は、ブロードバンドルータ専用です。

●インターネット

http://www.elecom.co.jp

●FAX情報サービス

最寄りのサービス情報BOXセンターにお電話ください。
ガイダンスに従って取り出したい情報のBOX番号を指示してください。

メインメニューBOX番号(提供している情報の一覧がFAXされます)
559900

電話番号
東　京：03-3940-6000　　大　阪：06-6455-6000
名古屋：052-453-6000　　福　岡：092-482-6000
札　幌：011-210-6000　　仙　台：022-268-6000
広　島：082-223-6000

●修理の依頼

本製品が故障した場合には、故障した製品と保証書に、故障状況を記入したものを添えてご連絡ください。

保証期間内
まずは、上記のラニード・サポートセンターまで電話またはFAXでご連絡ください。

保証期間外
東京都八王子市子安町3-5-2　セキエレクトロニクス株式会社内
エレコム修理センター
電話番号　0426-31-0271　　FAX番号　0426-31-0272
受付時間　月曜日～金曜日　9:00～12:00　13:00～17:00
（ただし、祝祭日および夏期・年末年始特定休業日は除く）
※FAXによる受信は24時間おこなっております。

●サポートセンターへお電話される前に

サポートセンターにお電話される前に次の事項を確認してください。

・このマニュアルのP66からの「トラブルチェック」および「こんなときは」をお読みになりましたか。まだ、お読みでない場合は、お電話の前にお読みください。

・システムを起動できる場合は、起動した状態でお電話ください。

・異常のある製品を取り付けたコンピュータの前から会話が可能な場合は、コンピュータの前からお電話をおかけください。実際に操作しながらチェックできますので、解決しやすくなります。

・FAXを送られる場合は、付属の別紙「トラブルシート」に、できるだけ詳しい内容をご記入ください。

次のことをお調べください。

●ネットワーク構成
使用しているネットワークアダプタ:
使用しているOS:
使用しているコンピュータ本体(メーカーおよび型番):
ネットワークを構成するコンピュータの台数とOSの構成:
ネットワークを構成するその他の関連機器(HUB、ルータ等）：

●具体的な現象について
具体的な現象:
事前にお客様が試みられた事項(あればお伝えください):

4 基本仕様

商品名	無線ブロードバンドルータ
製品型番	LD-WBBR4L

●ルータ部仕様

WAN側インターフェイス	10/100Mbps RJ45ポート×1
LAN側インターフェイス	10/100Mbps RJ45ワークステーションポート×4
規格	IEEE802.3/IEEE802.3u
対応回線	CATVインターネット接続、xDSL回線、FTTH回線
通信速度	WAN側：10/100Mbps、LAN側：10/100Mbps
アドレス変換方式	NAT/IPマスカレード
対応プロトコル	TCP/IP
セキュリティ	MACアドレスフィルタリング、パケットフィルタリング、 簡易ファイヤーウォール(DoS・SPI)、VPN(VPN Passスルー)
MACアドレス	1K
プリンタポート	D-Sub25ピン
電源/消費電力	電源：DC5V(ACアダプタによる) 2A　消費電力：最大8.5W
対応OS	Windows XP/Me/98/2000
動作温度	動作時：0℃～40℃　保管時：-10℃～60℃
動作湿度	動作時：5%～85%　保管時：5～85%
外形寸法/重量	幅221×奥行133×高さ32mm(突起物を除く)/610g
付属品	ACアダプタ、CD-ROMディスク、セットアップガイド、 ユーザーズマニュアル、保証書

●無線LAN部仕様

規格	IEEE802.11/IEEE802.11b　RCR STD-33 ARIB STD-T66
伝送方式	DS-SS方式
周波数帯域/チャンネル	2.4GHz(2.412～2.48385GHz)/1～14ch
伝送距離	屋内：11Mbps=約30m/ 5.5Mbps=約50m/ 2Mbps=約80m/ 1Mbps=約80m 屋外：11Mbps=約60m/ 5.5Mbps=約120m/ 2Mbps=約150m/ 1Mbps=約150m
アクセス方式	インフラストラクチャ・モード
アンテナ方式	ダイバシティアンテナ
セキュリティ	ESS ID、APステルス機能、MACアドレスフィルタリング、 WEP(64/128bit)

無線ブロードバンドルータ　LD-WBBR4L
ユーザーズマニュアル
発行　エレコム株式会社　　2002年12月2日　第1版2刷